

わくわく 算数

教科書番号

1年①	120	1年②	121
2年上	220	2年下	221
3年上	320	3年下	321
4年上	420	4年下	421
5年	520		
6年	620		

令和6年度用
内容解説資料

1～6 のご紹介



教科書のご紹介 WEBページ

新しい教科書の特徴を
動画で紹介しています。



https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/sho_r6/sansu

啓林館

紙とデジタル
あなたはどちらを使いますか？



教科書 × デジタルで、 算数はもっとわくわくする。



啓林館の「わくわく算数」でできること。
それは、紙だけでも、デジタルだけでもできない
未来に繋がる学びです。
コンテンツを操作しながら、
ノートいっぱいに考えをいかたり、
動画を見ながら、友達と話し合ったり、
問題練習コンテンツのヒントを参考に、
自分の力で試行錯誤してみたり。
様々な方法で学びを深める
子どもたちと先生方のために、
たくさんの方の掛けを詰め込みました。
ほら、わくわくしてきませんか？



目次

- 編集の基本方針 2
- 教科書の構成 4

第1部 だれひとり取り残さない「よりよい学び」へ 6

特色 1 ICT が一人ひとりの学びをサポートできるように

- QR コンテンツ 8
- 解説動画（スマートレクチャー） 14

特色 2 未来社会を生きる子どもたちのために

- プログラミング 16
- SDGs 18

第2部 資質・能力を伸ばし、それが生きて働く「深い学び」へ 20

特色 3 主体的・対話的で深い学びを実現するために

- めばえ・めあて・まとめ 22
- 数学的な見方・考え方 24

特色 4 協働的な学びと個別最適な学びを両立するために

- 学びに向かう力の育成・評価 26
- 基礎・基本の定着 28
- 思考力の育成 29
- 活用・探究 30

特色 5 なめらかな接続で学びを未来に繋げるために

- 幼保小の接続 32
- 小中の接続 34
- 統計・割合 36
- 今日的な教育課題への対応 40

- 学年別の特色 42
- 単元一覧表 48
- 領域別系統表 50
- 観点別特色一覧 60
- 周辺教材のご紹介（指導書・デジタル教科書・副教材） 68

編集の基本方針

算数を理解し
活用していく

深い学び

- 生活していく上で、基礎・基本となる数学的な知識・技能が習得できる
- 筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する思考力・判断力・表現力等が育成できる
- 新しいものごとを理解し創造する能力を育て、学びに向かう力、人間性等が涵養できる



Society5.0
時代の新しい

よりよい学び

- 問題解決や基礎・基本の定着など、さまざまな場面で ICT を利活用して学ぶことができる
- リアルとデジタルのよさをいかし、協働的な学びと個別最適な学びを実現することができる
- 家庭学習などの自学の場面で、自律的に学習を進めることができる

これから子どもたちが生きていく社会は、変化の波が押し寄せ予測困難なものになると言われています。そのような環境でも主体的に生き抜いていくためには、従来の算数を深く理解する「習得・活用 探究」の学習に加えて、自ら問題を見出し、自分なりの方法で解決を試みる態度が必要です。

その過程では、ICT を有効に活用することで、コンピュータにはできない人間ならではの思考に注力するというスキルも求められてきます。

啓林館の「わくわく算数」は、このような社会の流れをふまえ、子どもたちが ICT をよりよく使いながら未来をいきいきと創造することを願って編集しました。

未来を切り啓く子どもたちへ



編集委員長 寺垣内 政一 広島大学教授

算数は、誰にとっても簡単というわけにはいきません。しかし、簡単なことだけを学ぶことに値打ちがあるでしょうか。最初はわからなくても、知的な格闘ののちに壁を乗り越えたものだけに見える景色があるはずです。

「わくわく算数」は、良き伝統を尊重しつつ、加速する時代の流れに応じて、改訂を進めてきました。確かな数理の視点をもって人生を歩んでいく子どもたちと伴走する教科書を目指しています。

ICT を活用した、新しい学びの姿



副編集委員長 根上 生也 横浜国立大学名誉教授

教科書の随所に散りばめられた QR コードの先には、子どもたちの興味を喚起し、深い学びを促すデジタルコンテンツが待っています。授業で活用されることはもとより、自宅学習を支援し、個に応じた学びを実現します。

そして、6 年巻末にたどり着いたとき、算数で学んだことが様々な人生の中で生きていることを知ることになるでしょう。

ともに学びあう学習の実現のために



副編集委員長 矢部 敏昭 鳥取大学名誉教授

すべての教材に数学的な見方・考え方を明示し、子ども達がお互いの考えを出し合い、よりよい考え方へ練り上げていく協働的な学びを実現できるように改訂しました。また、算数の学びでよく用いられる見方・考え方を、わかりやすく整理しました。さらに、授業や家庭で学べる学習動画スマート・レクチャー・コミュニケーションを開発し、ともに学びあう学習を実現しました。

キーワード索引

ICT 6-15、67、69、72-75
PPDAC 36、65
QR 6-15、67、72
SDGs 18、65
インクルーシブ教育 11、40、63、72
解説動画 14-15、67
拡大教科書 63、76
家庭学習 15、28、64
カリキュラム・マネジメント 65

環境教育 18-19、60、65、67
基礎・基本の定着 12、26-27、28、61、64
キャリア教育 31、64
教科担任制 34-35、63
協働的な学び 26、28、60、67
国際理解 40、60
個別最適な学び 12、24-25、26、67
ジェンダー 40、60
自学自習 12、14-15、64

思考法・文章題 29、61、66
思考力・判断力・表現力 27、29、62
自己評価 27、62
資質・能力 27、62
習熟度別学習 14-15、27、28、64、67、74
主体的・対話的で深い学び 22-25、62
小中連携 34-35、63
人権 40、65
数学的活動 42、47、61、62、65

数学的な見方・考え方 24-25、61、67
スタートカリキュラム 32-33、63
全国学力・学習状況調査 28、64
他教科との連携 41、63
探究的な学び 27、30-31、64
知識・技能 27、62
つまずき 12-13、28、37、42-47、65
デジタル教科書 63、67、72-75
統計（データの活用） 18-19、36、65

統合的・発展的な考え 24-25、27、62
道徳 41、63
特別支援教育 40、67、72
1人1台端末 6-15、67、72
評価 27、62
福祉 40、65
付録 45、67
プログラミング 16-17、64
防災教育 41、65

学び直し 15、25
学びに向かう力 26-27、62
ユニバーサルデザイン 40、63、66
幼保小連携 32-33、63
休校 67
レディネスチェック 26、63
割合 37-39、65
働き方改革 67
学びの保証 15、67

教科書の構成

子どもの多様な学びに対応するために、単元とオプション（巻頭・巻末）の2つの部分で構成しました。
さらに、教科書の各ページに配置されたQRコンテンツを活用することで、学びを深めることができます。



もっと！ 多彩になった5種類のQRコンテンツ

タブレットを使うことで、様々なQRコンテンツを活用して学習を進めることができます。

その1



ブロック操作などの操作コンテンツ

その2



コンパスの使い方などの説明動画

その3



ヒントと答えて自学で取り組める

その4



間違いやすい箇所の確認など

その5



すべての主問題（1 2 など）についての解説動画

改訂のポイント！

各コンテンツの質を高めるとともに、コンテンツの数を大幅に増やしました。→ p.6～15

第1部

だれひとり取り残さない 「よりよい学び」へ

動画は
コチラ！



Society5.0
時代の新しい
よりよい学び

×

深い学び

学びの本質は、そのままに。

1人に1台の端末所持が実現した小学校。
学びの姿が大きく変わったように思えますが、
その本質は変わっていません。

啓林館がずっと大切にしてきた
数学的な深い学びを実現するための手段が
さらに多様になった。それだけです。

子どもたちの学びの質を高めるため
細部に至るまで議論を尽くす啓林館のこだわりは、
デジタルコンテンツについても変わりません。

新しくなった、だけじゃない。
本質を見据えた改訂で、よりよい学びをつくれます。



特色 1 ICT が一人ひとりの学びをサポートできるように

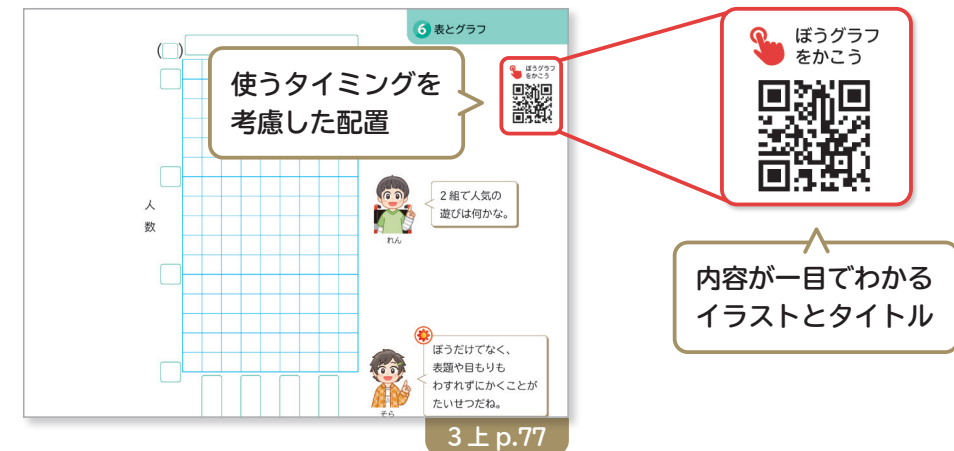
● リアルとデジタルのベストミックス

実体験のよさも考慮しながら、**算数の学びがより深まるコンテンツ**の配置を検討しました。



● 使い方がすぐにわかる

ICT を活用した効果的な授業展開を紙面からもサポートします。

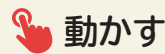


※ QR コンテンツは、すべての児童が一律に学習する必要はありません。

特色 2 未来社会を生きる子どもたちのために

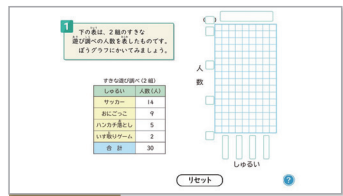
答えが1つに定まらない問いを、他者と協働して解決していく力を培えるよう、
プログラミング、SDGs など、算数をいかしつつ教科の枠組みを超えた学習場面を設定しています。





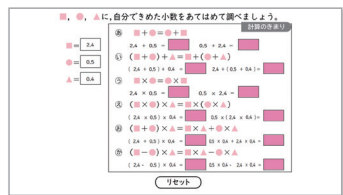
動かす

自由に操作しながら試行錯誤できます。



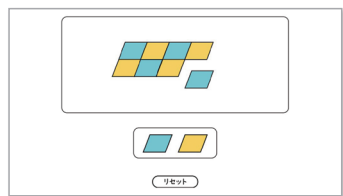
3上 p.77 ぼうグラフをかこう

統計単元では、グラフをかけるコンテンツを豊富にご用意しています。



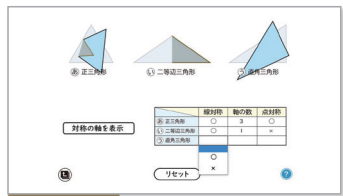
5年 p.47 計算のきまり

式や答えが自動で変わるので、計算のきまりを簡単に確かめられます。



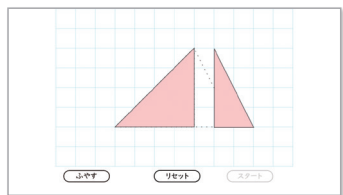
4上 p.80 もようづくり

コンテンツ上で敷き詰め作業ができるので教材準備の手間が省けます。



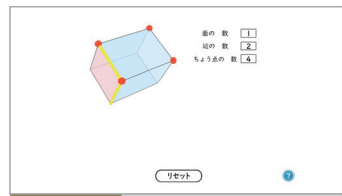
6年 p.22 形調べ

既習の図形を、点対称や線対称かどうかを実際に操作して確認することができます。



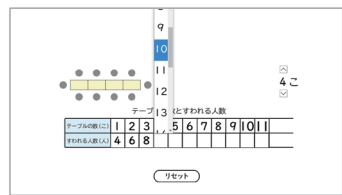
5年 p.137 面積の求め方

コンテンツでは図形の切断や移動を何度も簡単に試行錯誤することができます。



2下 p.98 辺と ちょう点

立体を自由に動かして、面や辺、頂点の数を数える事ができます。



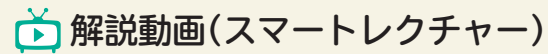
4下 p.86 テーブルをならべる

テーブルの数と座れる人数との関係について図を変化させながら考察することができます。



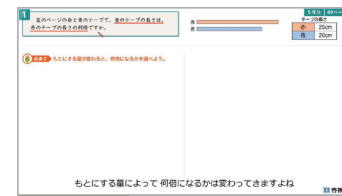
3上 p.51 時計

つまずきやすい時間の計算も、自分で操作することで理解が深まります。



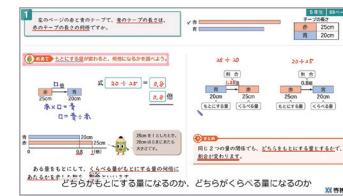
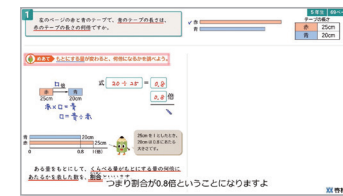
解説動画(スマートレクチャー)

全ての ① の問題についています。



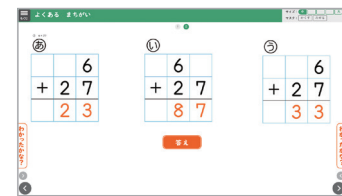
5年 p.69 割合 (1)

大切な箇所に線を引ながら児童が学習できるペースで丁寧に解説しています。



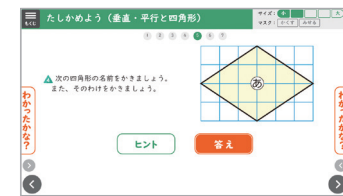
問題

自学自習にも最適です。



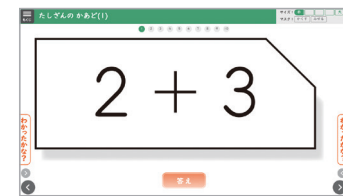
2上 p.51 よくある まちがい

誤答の多い問題では、よくある誤答をQR コンテンツで取り上げました。



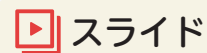
4上 p.82 たしかめよう

単元末や復習・練習のページでは、ヒントや答えを児童が自分で確認できます。



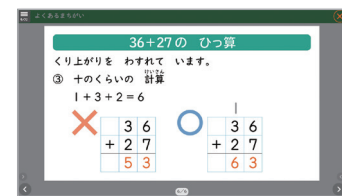
1年 p.11 たしざんの かあと

繰り返し練習が必要な場面では、多数の問題に触れられるようにしました。



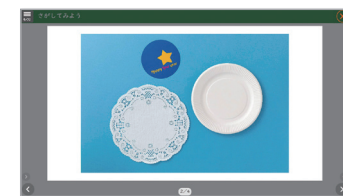
スライド

資料としてご利用いただけます。



2上 p.54 よくあるまちがい

紙面で誤答を取り扱っている箇所では、順を追って手順を確認できます。



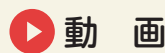
3下 p.11 さがしてみよう

身の回りの算数探しの場面では、いろいろな資料を提示しています。



6年 p.19 点対称な形

紙面にはない資料を多数掲載しているので、活動の幅が広がります。



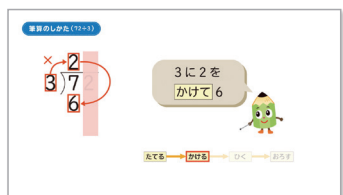
動画

動きを通して理解を深めます。



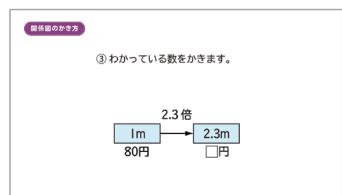
3下 p.4 コンパスの使い方(左手)

右利き向け、左利き向けの両方の動画を ご用意しています。



4上 p.38 筆算のしかた

順を追って筆算の手順を確認できるので操作をイメージしやすくなります。



5年 p.35 図のかき方

図のかき方の動画も系統的にご用意しているので、問題解決に効果的です。



5年 p.240 出会うようす

動画を見ることで、複雑な問題も場面の確にとらえることができます。



1 ① p.7 わくわく がっそう

スタートカリキュラムでは、楽しい動画から自然に授業に入れます。



2上 p.35 cm の かき方

文字や記号のかき方を学ぶ紙面では、全ての箇所に動画を設定しています。

その他



3下 表紙 表紙のヒミツ

表紙のトリックアートの境目のコツを見ることができます。



5年 p.247 わくわく SDGs

他教科の SDGs の取り組み事例などを確認することができます。



1年 p.94 ぷろぐらみんぐ

プログラミングは、全学年で Scratch とオリジナルコンテンツをご用意しています。

QR コンテンツ数

	特徴	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
動かす	自由に操作しながら試行錯誤できます。	25	17	24	27	30	14	137
動画	筆算のしかたなど、動きを通して理解を深めます。	31	65	59	57	52	36	306
解説動画 (スマートレクチャー)	すべての ① 問題の解説動画を視聴できます。	173	159	176	185	155	125	973
問題	問題練習をすることができます。	23	28	26	31	26	30	164
スライド	連続画像を表示します。	0	6	8	4	2	3	23
その他	(SDGs ポータルサイト、Scratch など)	1	1	2	2	3	2	11
計		259	276	295	306	268	210	1614

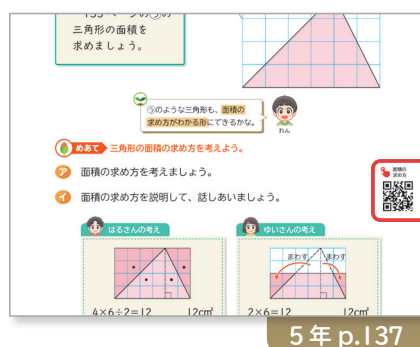
※1つのQRコードから複数のコンテンツにリンクしているものもあるので、紙面に掲載しているQRコードの数はこれよりも少なくなります。(計749個)
※QRコンテンツは、すべての児童が一律に学習する必要はありません。 ※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

QRコンテンツ

動かす

図形の学習で

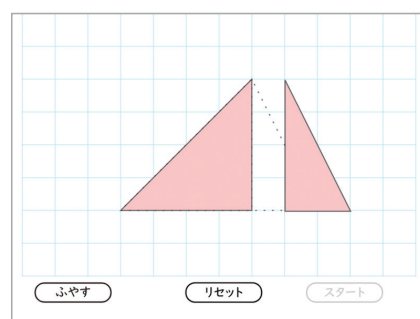
すべての児童が進んで
試行錯誤できるように
したいけど……



5年 p.137

デジタルコンテンツを使うと

簡単にやり直せるので、上手いかなかった
ところを改善したり、友だちの考え方を
試したりすることが円滑に行えます。



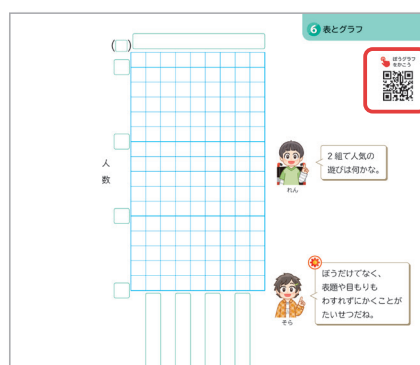
学びの深化



面積の
求め方

統計の学習で

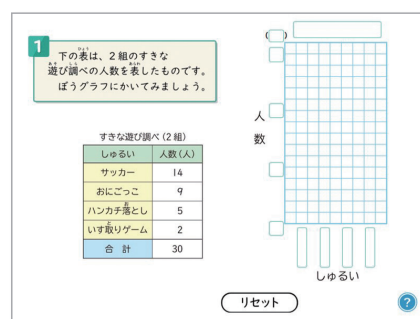
その場でグラフを作ったり、
作り直したりして分析できるよ
うにしたいけど……



3上 p.77

デジタルコンテンツを使うと

グラフが簡単に作成・修正できるので、
分析の時間が確保しやすく、
グラフの見え方を変えれば多面的な分析も。



統計指導の充実



ばうグラフ
をかこう

Q. CBTとは何ですか？

A. CBT (Computer Based Testing) は、
コンピュータを使った試験方式のことです。
自動採点はもちろん、コンピュータ上の思考ツールを使って
答えを導くといった出題も可能です。
今後、全国学力・学習状況調査においても CBT の導入が予定されています。

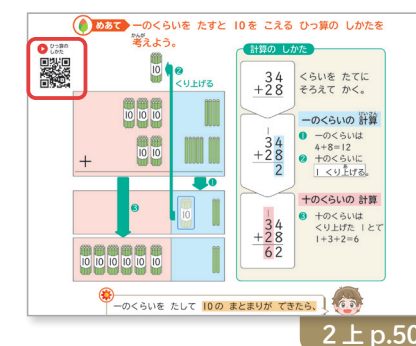


タブレットを操作してよりよい解決を
目指す学習に取り組むことで、
CBT にチャレンジする力もつきます。

動画

筆算の学習で

方法や考え方を自分で
確かめながら学習できる
ようになってほしいけど……

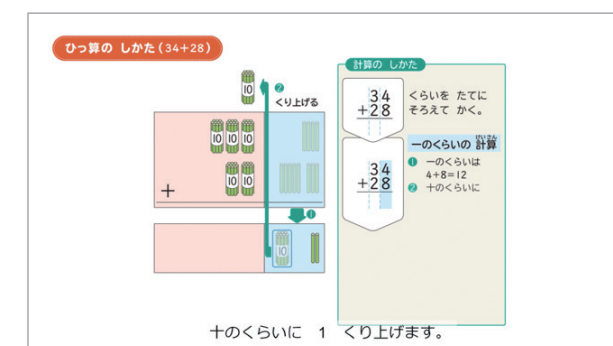


2上 p.50

デジタルコンテンツを使うと

動画を使って自分で学び直しをさせることで、
学力向上と学ぶ態度の向上が図れます。
字幕表示で音声なしでの視聴も。

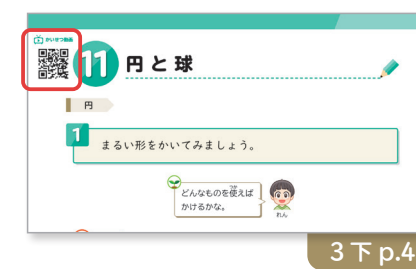
基礎・基本の定着



ひっ算の
しかた

作図の学習で

児童の特性に合わせて
教えられるように
したいけど……



3下 p.4

デジタルコンテンツを使うと

利き手にあった動画を選んだり、
手で動画を見たり、
自分のわかりやすい方法で学ぶことができます。

インクルーシブ教育



コンパスの使い方 (右手) コンパスの使い方 (左手)



コンパスの
使い方

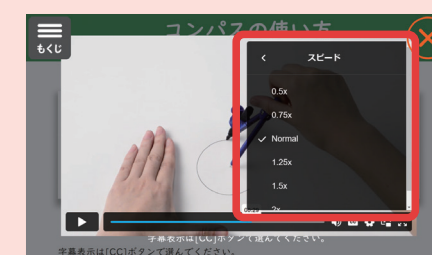
Q. 字幕を表示するにはどうすればよいですか？

A. 動画下のツールバーから「CC」ボタンをクリックし、
「日本語」を選択すると、字幕を表示できます。
「カスタマイズ」からは、文字の色やサイズ、
フォントなどを変更することもできます



Q. 再生速度を調整することはできますか？

A. 動画下のツールバーから歯車ボタンを
クリックし、「スピード」を選択すると
再生速度を変更することができます。
0.5倍～2.0倍の間で調整できます。



問題

定着を図る学習で

つまづいている児童を一人ひとり支援したいけど……

デジタルコンテンツを使うと

「練習」や「たしかめよう」ではヒントと答えが自分で確認でき、一人ひとりの理解度に応じた学び方ができます。

個別最適な支援

学びのまとめ

たしかめよう

右の図で、直線aと直線bは、
① 平行、直線cと直線dは、
② 垂直です。

下の図で、点Aを直線aに、直線bに、
点Bを直線cに平行な直線をかきましょう。

次の平行四辺形について、①にあてはまる数を
かきましょう。

① ②

105° 75° 6cm

4上 p.82

たしかめよう

次の四角形の名称をかきましょう。
また、そのわけをかきましょう。

ヒント

4つの辺の長さを調べてみましょう。

たしかめよう



スライド

定着を図る学習で

間違いやすい問題でも解けるようになってほしいけど……

デジタルコンテンツを使うと

誤答例について順を追って説明するコンテンツで、誤りの原因を児童と共有し、確実な理解につなげます。

つまづきへの対応

かずさんは、 $36 + 27$ の計算の まちがいを
下のようにつめていしています。

くり上がりを わすれて
います。十のくらは
 $1 + 3 + 2 = 6$ になります。

$43 + 28$ の計算の まちがいを
つめていして みましょう。

4上 p.54



筆算の結果だけでは
どこでまちがえたのか
わからないよ。



36+27のひっ算

つぎの計算の まちがいを つめていして みましょう。

① くり上りを たてに
そろえて かく。

② 一のくらの 計算
 $6 + 7 = 13$

③ 十のくらの 計算
 $3 + 2 = 5$

36+27のひっ算

くり上がりを わすれて います。

③ 十のくらの 計算
 $1 + 3 + 2 = 6$

くり上がりを忘れないよう
気をつけたいな。



筆算の学習で

間違いから学べるように
子どもの誤答を授業で
取り扱いたいけど……

デジタルコンテンツを使うと

誤答の多い問題には、誤答例が取り扱えるコンテンツを
用意しているの、間違えた児童の学習意欲を
損なうことなくつまづきを解消できます。

つまづきへの対応

8 $43 + 5$ 、 $6 + 27$ を ひっ算で し て み ま し ょ う。

つぎの計算を ひっ算で し ま し ょ う。

① $43 + 6$ ② $84 + 3$ ③ $63 + 9$ ④ $36 + 4$
⑤ $5 + 24$ ⑥ $7 + 32$ ⑦ $8 + 49$ ⑧ $9 + 61$

2上 p.51

よくあるまちがい

どの ひっ算が 正しいですか。

① $43 + 5$

②

③



Q. 問題コンテンツは、自学にも配慮されていますか？

A. 自学で取り組むことが多い「たしかめよう」「練習」「復習」には問題コンテンツを必ず配置しています。
さらに、誤答が多い問題には「よくあるまちがい」として誤答例を扱った問題に取り組めるものも掲載しています。

Q. 「よくあるまちがい」のコンテンツには、どのようなものがありますか？

A. 手順にそって誤答箇所を解説する
スライド形式のもの、誤答の
多い問題を練習できる問題形式の
ものの2種類があります。
6学年で計54コンテンツご用意
していますので、多様な問題に
についてお使いいただけます。

よくあるまちがい

4.65 ÷ 1.5 の筆算

② わる数とわられる数の小数点を同じ数だけ右に移し、
わる数を整数にして計算する。

③ 商の小数点は、わるる数の移した小数点にそろえてうつ。

5年 p.60 スライド

よくあるまちがい

② $4.5 \div 0.75$

③

5年 p.59 問題

解説動画（スマートレクチャー）

教科書のデジタルコンテンツとして、主問題（1 マークの問題）すべての解説動画をご利用いただけるようにしました。

- ① 学年を超えた利用が可能 → **どの学年のどの内容についても学び直しや準備ができます**
- ② 教科書紙面を使った丁寧な解説 → **家庭などの学校外の学習にも安心して使えます**
- ③ 字幕付きで音声なしの利用が可能 → **教室中でも個々が学びたい内容を選んで視聴できます**

※令和2～5年度では「わくわく算数スマートレクチャー」として提供

解説動画（スマートレクチャー） スマートレクチャーコミュニケーション → p.71

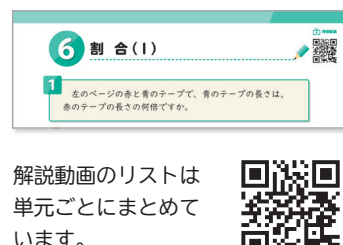
宿題をするときに

学校ではできたけど、これであっているのかな……

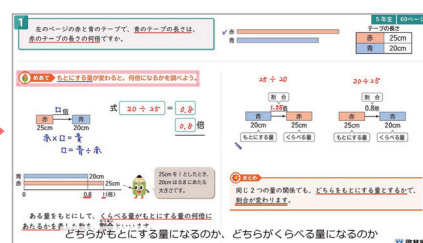
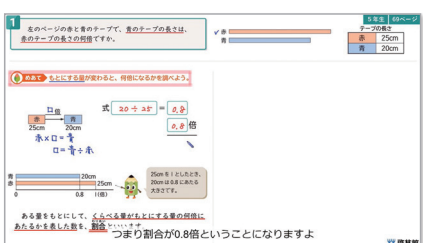
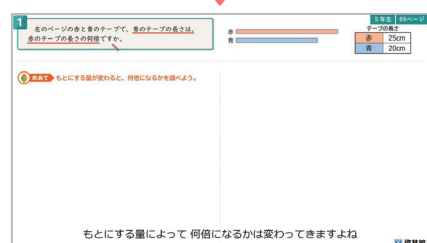
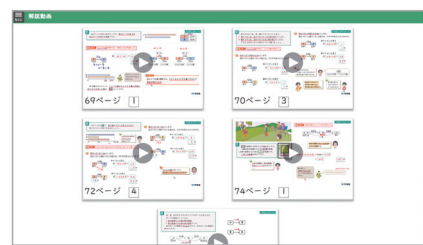
解説動画を使うと

子ども自身が主問題で基礎・基本を学び直すことができますので、自学自習の質を高めることができます。

自学自習の支援



解説動画のリストは
単元ごとにまとめている。



大切な箇所に線を引きながら、児童が学習できるペースで丁寧に解説しています。

Q. 学年を超えてデジタルコンテンツを利用するには？

A. デジタルコンテンツの「もくじ」ページの最上段に「学年ボタン」を配置しています。そちらで学年を選んでいただくことができます。
「もくじ」ページには、各デジタルコンテンツの左上の「もくじボタン」から移動することができます。



スマートレクチャーを活用した先生方の声

導入前の既習内容の ふり返しとして

新しい学習の前にレディネスチェックを行い、既習内容を補充しておきたい児童には「解説動画」で学び直しをさせています。巻末「じゅんぴ」と「解説動画」を組み合わせることで、学習の入口がよりスムーズになりました。

複式学級での指導や 学習の補助ツールとして

複式学級では1回の授業で2学年分の内容が並行して取り扱われます。両方とも丁寧に取り扱うことが難しかったり、理解の支援が必要な児童がいたりする場合には、「解説動画」を指導や学習の補助として利用しています。

個別最適な学習として

「解説動画」は、児童自身のペースで停止したり、わからないところを繰り返し見たりすることができます。練習問題（△問題）に取り組ませるときなど、先生が一人ひとりを支援することが難しいときの手立てとして利用できます。

不登校児の 学習支援の補助として

不登校児童への支援は訪問等による対面指導を適切に行うことが前提ですが、ICT等を活用した学習活動も認められています。「解説動画」は当該児童の理解やペースにあわせ、学年を超えて利用することも可能です。

授業準備の資料として

「解説動画」は児童への発問を軸に構成され、考えさせたいところでは間もとっています。特に初めて指導する学年や内容では、教師用指導書に加え「解説動画」も参考にして授業構想を練っています。

学校を休んだときの 補完として

風邪などで学校を休んだときには、先生だけではなく児童自身や保護者にも学びもれの不安が残ります。「解説動画」なら家庭学習でも内容の理解を図ることができ、いつもの教科書を使って練習問題にも取り組ませることができます。

予習や反転学習の 補助として

学級や児童の実態に応じて予習や反転学習を取り入れるときには、教科書だけではなく「解説動画」も事前に見て個々の理解を図っておくことで、協働的な学びや活用・探究に重点をおいた授業が進めやすくなります。

子どもを支援する 施設での学習補助として

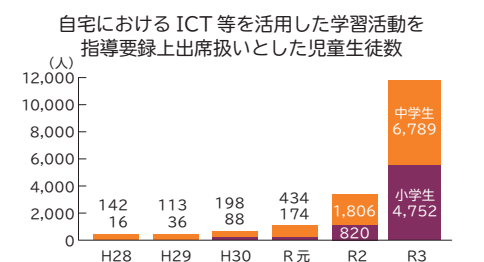
ケガや病気、その他の何らかの理由で学校に行きたくても行けない様々な児童を支援する場においても、教科書があれば学習支援の手立てとして「解説動画」を利用できます。字幕表示により聴覚障がいの児童の支援も可能です。

小学校における長期欠席の状況と不登校児童の支援の在り方について

文部科学省の調査によると、令和3年度の小学校における長期欠席者数は180,875人で、そのうち不登校児童数は81,498人となっており、いずれも9年連続で増加しています。「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」には、不登校児童への支援として「**多様な教育機会の確保**」が謳われ、一定の要件を満たした上で、学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けた日を指導要録上出席扱いとすることや、自宅におけるICT等を活用した学習活動を行った場合に指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することが認められています。

文部科学省

「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」（令和4年10月27日）
「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年10月25日）



プログラミング

令和4年度の全国学力調査でも出題され、注目が集まるプログラミングですが、何から始めればよいか、悩んでしまう先生も多いのではないのでしょうか。啓林館の紙面では、無理なく楽しんで**プログラミング的思考**を育み、**算数の学び**へとつなげます。

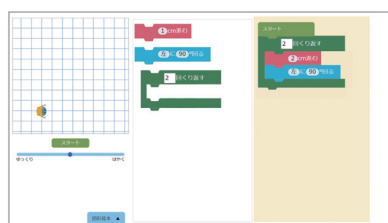
わくわくプログラミング

全学年で系統的にプログラミング単元を設定しました。

全学年でScratchとオリジナルコンテンツの2種類を用意しています。



Scratch



オリジナルコンテンツ



5年 p.242 ~ 243

命令のブロックと動作を対応させて、丁寧に指導できます。

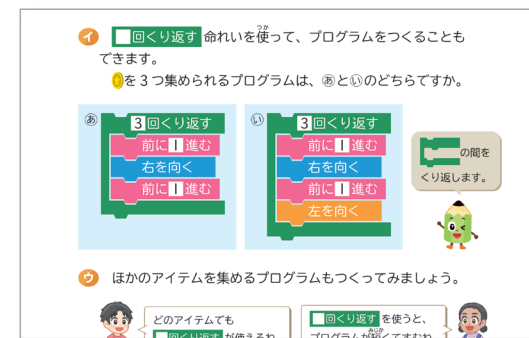
誤ったプログラムを修正するときの考え方も扱っています。

答えとなるプログラムは基本的に全て掲載しているので、ご指導経験の浅い先生でも安心して授業ができます。

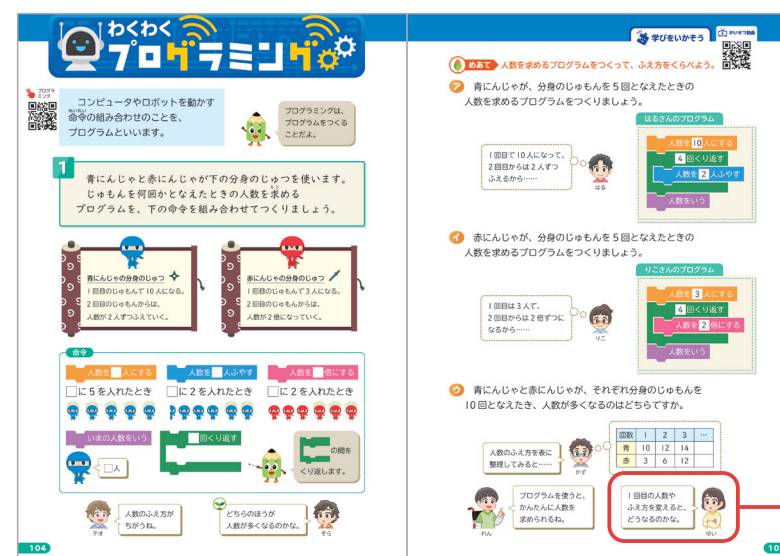
プログラムをよむ活動も取り入れているので、より理解が深まります。



2下 p.111



3下 p.53



4下 p.104 ~ 105

単にプログラミングの技能を高めるだけでなく、数学的な学びが得られるような題材・展開にしています。

1回目の人数やふえ方を変えると、どうなるのかな。



「わくわくプログラミング」一覧

学年	ページ	算数の内容	主なプログラムの要素
1年	p.94 ~ 95	二次元で表したものの位置	順次
2下	p.110 ~ 111	向き、長さ	順次
3下	p.52 ~ 53	くり返し	順次・反復
4下	p.104 ~ 105	等差数列・等比数列	反復
5年	p.242 ~ 243	正多角形の作図	反復
6年	p.186 ~ 187	倍数	条件分岐

プログラムの3要素

プログラムには、3つの基本的な構造があります。この基本構造を意識して系統的に配置しています。

順次

命令を、与えた順番通りに実行すること。プログラムの最も基本的な動きとなります。

反復

同じ命令を何度も繰り返すこと。回数や終了条件を指定します。

条件分岐

ある特定の条件を満たすかどうかで命令を変化させること。

SDGs 単元

変化が大きくなる未来社会では、学んだことを自分の生活に活用して自ら問題を解決しようとする姿勢がより重要になってきます。

SDGs 単元では、子どもたちと一緒に、これからの社会を考えることができます。

わくわく SDGs

3 年生以上で、学年末に「わくわく SDGs」単元を新設しました。
1 年間の集大成として、社会の**答えが 1 つに定まらない問い**に対して
算数を使って取り組み、
自分たちに何ができるかを考えることができます。

問題提起
データ・情報の提示

算数の学びをいかした
情報の整理

まとめ・考察

みんなの SDGs

エネルギーを使いすぎているかな？

日本で消費されたエネルギーの量を 1990 年と 2020 年でくらべると、全体では減っているけど、家庭では増えているんだよ。

エマ

家庭で増えたのは、どうしてかな。

いろいろ調べて、何かできることを考えてみたいね。

はる

エマさんたちは、家庭での消費エネルギー量が増えたことを知り、日本で消費されたエネルギー量について調べました。

調べてわかったこと

- 1990 年度から 2020 年度までの消費エネルギー量

年度	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020
日本全体 (PJ)	13553	15127	15854	15901	14711	13523	12089
日本の家庭 (PJ)	1640	1777	2125	2186	2165	1908	1908

PJ は、エネルギーの量を表す単位で、パナジーとよみます。

- 家庭のエネルギー消費量の割合

1990 年度

エネルギー	割合 (%)
電力	約 40%
都市ガス	約 30%
石油	約 20%
その他	約 10%

2005 年度

エネルギー	割合 (%)
電力	約 45%
都市ガス	約 30%
石油	約 20%
その他	約 5%

2020 年度

エネルギー	割合 (%)
電力	約 50%
都市ガス	約 30%
石油	約 15%
その他	約 5%

(消費エネルギー・PJ「総合エネルギー統計」より作成)

エネルギーをたいせつに 使おうプロジェクト

1 エネルギーについて調べて、エネルギーをたいせつに使うためにどんなことができるかを話しましょう。

① **めあて** エネルギーをたいせつに使うためにできることを考えよう。

② 1990 年度から 2020 年度までの家庭の消費エネルギー量をグラフに表して、家庭の消費エネルギー量の変わり方について調べてみましょう。

家庭の消費エネルギー量 (PJ)

1990 年度から 2020 年度までは増えていて、2005 年度から 2020 年度までは減っているね。

1990 年度と 2005 年度と 2020 年度の中で、家庭で消費されたエネルギー量がいちばん多いのは、どの年度ですか。

2005 年度だよ。

左のページの棒グラフをみると、2020 年度のように見えるけど……

5 年 p.244 ~ 245

実際の社会の問題に触れることで、教科横断的な学びも行うことができます。

必要な情報を選択する力や、目的にそってデータをまとめる力を養います。

わくわく SDGs

みんなで考える みんなの未来

算数で SDGs を学ぼう！

家庭での省エネの取り組み

算数 5

わくわく算数 5

算数で SDGs の目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

理科

算数で SDGs を学ぼう！

コオロギが世界をさく？

わくわく理科 4

理科で SDGs の目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

英語

算数で SDGs を学ぼう！

世界にはどんな問題があるの？ ごみ

Blue Sky elementary 5

英語で SDGs の目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

SDGs 単元からは、弊社の SDGs 特設サイトを閲覧することができます。SDGs の各目標の説明や他教科の教科書での掲載事例などを確認することができるので、教科横断的な学習にも使えます。

みんなの SDGs

家庭での省エネの取り組み

エネルギーを節約することを省エネといいます。大阪府では、かんきょうにやさしい生活を送るために生活を見直すきっかけとなる、かんきょう家計簿というツールが用意されています。これを使うと、家庭でのエネルギー使用量を減らすための、自分にあった目標を立てられます。

空港での省エネの取り組み

東京国際空港では、ターミナルビルの屋根に太陽電池を設置して電気をつくり、光センサーで明るさを調節することで必要なだけライトがつくようにしたりして、エネルギーをつくり、むだなく使う取り組みが行われています。

再生可能エネルギーを広める取り組み

太陽光・風力・水力・地熱など、くり返し利用することができるものからつくられたエネルギーを再生可能エネルギーといいます。長野県では、県内の水力発電所につくった電力を広く使ってもらえるような取り組みや、その電力を活用して水素エネルギーをつくる取り組みが行われています。水素エネルギーは、かんきょうにやさしいエネルギーとして注目されています。

1990 年度 $1640 \times 0.39 = 639.6$ 約 640PJ
2005 年度 $2186 \times 0.46 = 1005.56$ 約 1000PJ
2020 年度 $1908 \times 0.5 = 954$ 約 950PJ

家庭で消費されたエネルギー量 (PJ)

調べてわかったことをもとに、エネルギーをたいせつに使うためにできることについて話しましょう。

家庭で使う電力量をさらに減らすとよいね。

ほかに電気をいかに減らすか。

部屋の電気をこまめに消すようにしよう。

みんなで話しあって考えたことは、SDGs という社会のみんなが取り組んでいる目標にもつながっていくよ。

5 年 p.246 ~ 247

データからわかったことをまとめ、自分たちに何ができるか、身近な場面に落とし込んで考えます。

SDGs に関する実際の取り組み事例を掲載しているので、調べ学習にも最適です。

第2部

資質・能力を伸ばし、 それが生きて働く「深い学び」へ

動画は
コチラ！



算数を理解し
活用していく
深い学び

よりよい学び

「算数の学び」へのこだわり。

啓林館がこれまでずっと大切にしてきたこと。
それは、子どもたち一人ひとりの数理的な力を最大限にのばし、
生活にも生かされる「生きる力」を育むこと。
そして、「学ぶことにわくわくする教科書」にすること。



単に問題の解き方が定着すればよいというのではなく、
子どもたちには、学んだことから新たな問題を発見する楽しさや、
学んだことをいかして別の問題も解決できる算数・数学のよさを味わってほしいと願っています。

「わくわく算数」は、
「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善の
ポイントが見てわかる
教科書に生まれ変わりました。

主体的な学び
(個別最適な学び)

深い学び

対話的な学び
(協働的な学び)

特色 3 主体的・対話的で深い学びを実現するために

● めばえ・めあて・まとめ → p.22

子ども自身が学習の目的や課題に目を向けて
取り組めるようにしています。

四角形の角

1 四角形の4つの角の大きさの和を求めましょう。

三角形の3つの角の大きさの和を調べたときは……

めあて 三角形のときをもとにして、四角形の4つの角の大きさの和を調べよう。

5年 p.88

● 数学的な見方・考え方 → p.24

数学的な見方・考え方を働かせることのよさ
を感じながら学習できるようにしています。

0.03を100倍した式を考えると……

0.03 × 7 = × 100

3 × 7 = 21

0.03 × 7の0.03を 倍した式は、3 × 7 = 21です。

その答えの21を でわって、0.03 × 7 = です。

4下 p.34

特色 4 協働的な学びと個別最適な学びを両立するために

● 学びに向かう力の育成 → p.26

単元の出口では、さらに発展的に考え、
活用・探究に取り組む児童の姿を示しています。

学びをいかそう
やってみよう

テオさんは、自分がたいせつだと思ったことを使って、平行四辺形や台形をしきつめたもようから、ほかにもとくちょうがないかを調べてみることにしました。

4上 p.83

● 基礎・基本の定着 → p.28

全国学力調査などで課題となっている基本的な
内容は繰り返し学べるようにしています。

あおいさんの学校の4年生64人に、
一輪車に乗れるかどうかをききました。

一輪車に乗れると答えた人は全体で44人いて、
4年2組では、32人のうちの24人が一輪車に乗れると答えました。

下の表を完成させましょう。

一輪車に乗れる人調べ(人)			
	乗れる	乗れない	合計
1組			
2組			
合計			64

5年 p.101

特色 5 なめらかな接続で学びを未来に繋げるために

● スタートカリキュラム → p.32

1年生の新冊「すたあとぶっく」で
入学当初の学びをサポートします。

いち

1年① p.12

● 学びやすさ・教えやすさの向上 → p.36

「データの活用」や「割合」をスムーズに
学習・指導できるようにしています。

算数ポケット 文と図と式

次の文は、下のような図と式に表すことができます。

赤のテープの長さは25cm、青のテープの長さは20cmです。

赤のテープの長さの0.8倍が青のテープの長さです。

0.8倍

25cm 20cm

5年 p.73

めばえ・めあて・まとめ

問題と出会ったときの子どもたちの問いや気づきを「学びのめばえ」として掲載し、基本単位ではすべての時間で「めあて」とそれに対応した「まとめ」を例示しました。

子どもたちが自ら問いや見通しを立て、主体的・協働的によりよい解決に向かうことができるよう展開しています。

学習の進め方

これまでの学習

どんな問題かな

自分で考えよう

みんなで話しあおう

たしかめよう

ふりかえろう

次の学習

どんな問題かな

めばえ

これまでに学習したことなどをいかして、子どもたちが自ら問いや見通しを立てる様子を例示しています。これらが、本時の「めあて」に繋がります。

めあて

「めばえ」で生まれた子どもの気づきをもとにした「めあて」の例示です。学ぶ目的を明確にすることで、自力解決や協働的な学びへと向かっていきます。

自分で考えよう

本時

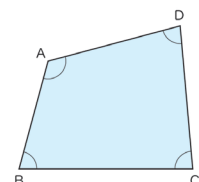
四角形の角

1 四角形の4つの角の大きさの和を求めましょう。

三角形の3つの角の大きさの和を調べたときは……

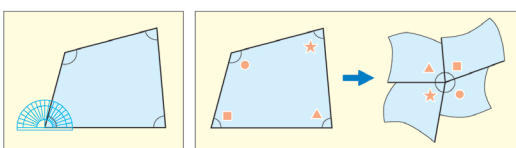


そら



めあて 三角形のときをもとにして、四角形の4つの角の大きさの和を調べよう。

ア 四角形ABCDで、それぞれの角の大きさをはかったり、写しとって4つの角を1つの点に集めたりして、調べましょう。



たすと360°になります。



りこ

一回転の角になるから、360°になります。



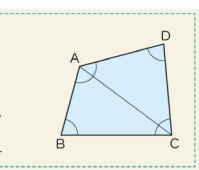
れん

イ 四角形を三角形に分けて調べて、4つの角の大きさの和が360°になることを説明しましょう。

ゆいさんの考え

対角線で2つの三角形に分けました。三角形2つ分の角の大きさの和になっているから、

$\square^\circ \times 2 = \square^\circ$



88

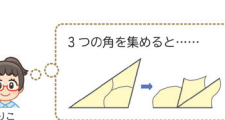
5年 p.88

問いや見通しを持たせるには？

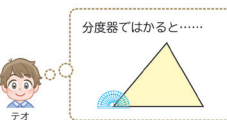
これまでの学習との繋がりに気づかせることが大切です。「めばえ」は、そのことも意識して設定しています。

前の学習

エ どんな三角形でも、3つの角の大きさの和は180°になることを、自分で形や大きさをきめて三角形をかき、①や②のしかたで確かめてみましょう。



りこ



テオ

5年 p.86

7 合同な図形

はるさんの考え

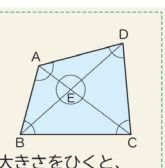
2本の対角線で4つの三角形に分けました。

三角形4つ分の角の大きさの和は

$\square^\circ \times 4 = \square^\circ$

そこから、点Eのまわりの一回転の角の大きさをひくと、四角形の4つの角の大きさの和になるから、

$\square^\circ - \square^\circ = \square^\circ$



右のように、四角形の中に点をとって、4つの三角形に分けた図でも説明できますか。



エマ

四角形を三角形に分けると、三角形の3つの角の大きさの和が180°であることが使えるね。

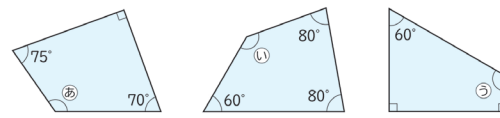


エマ

まとめ

どんな四角形でも、4つの角の大きさの和は360°になります。

2 下の図の①、②、③の角の大きさは、それぞれ何度ですか。



3 右の平行四辺形で、④の角の大きさは何度ですか。



もっと練習 262ページ

5年 p.89

みんなで話しあおう

まとめ

協働的な学びを通してわかったことの「まとめ」を例示しています。「まとめ」は、キャラクターの吹き出しで示しているところもあります。

たしかめよう

ふりかえろう

次の学習

1 多角形の角の大きさの和を調べましょう。

三角形や四角形の角の大きさの和を使うと……



かず

5年 p.90

単元を通して学びを深めるには？

学んだことを次時以降の学習でもいかし、深めていくことが大切です。そのことを意識して単元の計画を立てています。

数学的な見方・考え方

子どもたちが主体的・対話的に学習している様子をキャラクターの発言として掲載し、特に価値づけたい数学的な見方・考え方にはマーカーを付して強調しました。

子どもたちが数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に考えていくことができるよう展開しています。

見方・考え方マーカー

考えたことをふり返って、よりよい解決をめざす
見方・考え方

1 20×3 、 200×3 の計算のしかたを考えましょう。

めあて ● や ● を使って、計算のしかたを考えよう。

20×3

20 ……10 が2こ
 $20 \times 3 \cdots 10$ が (2×3) こ
 $20 \times 3 =$ 円

200×3

200 ……100 が2こ
 $200 \times 3 \cdots 100$ が (2×3) こ
 $200 \times 3 =$ 円

2 × 3 をもとにして計算できるね。

3下 p.23

これまでの学習をもとに
解決の見通しを立てる
見方・考え方

0.01 の何こ分かを考えると……

0.03 は 0.01 の こ分て、 0.03×7 は 0.01 の $(\quad \times \quad)$ こ分だから、 $0.03 \times 7 =$ です。

0.03 を 100 倍した式を考えると……

$0.03 \times 7 =$

$\times 100 \quad \times 100 \quad \div 100$

$3 \times 7 = 21$

0.03 × 7 の 0.03 を 倍した式は、 $3 \times 7 = 21$ です。
その答えの 21 を でわって、 $0.03 \times 7 =$ です。

これまでにわかったことと
統合したり、発展させたりする
見方・考え方

6 0.17×2 、 0.25×4 の計算をしましょう。

小数のかけ算のしかたは、整数のかけ算を使って考えることができるね。

① 0.02×3 ② 0.03×9 ③ 0.05×4

4下 p.34

マーカーのない吹き出しは？

マーカーは特に価値づけたいものを厳選して付しています。

マーカーのないものに数学的な見方・考え方がないというわけではありません。

えんぴつくんの吹き出しは？

えんぴつくんの吹き出しは、子どもたちが考えるときのヒントや問いかけになっています。

発問するときの参考にしてください。



考えの進め方

巻頭では、算数で使いたい考え方を
図・演繹・類推・帰納・統合・発展の6項目（2・3年生は4項目）
にまとめ、既習事項を例に具体的に紹介しています。

図

類推

統合

考えの進め方

4年の学びをふりかえってみよう

図を使って考える
 $2 \times \square = 12$

同じように考える
 $0.03 + 0.05 = 0.08$
 $\frac{3}{10} + \frac{5}{10} = \frac{8}{10}$

結びつけて考える
小数と整数を結びつけて数のしくみについて考えることができるね。

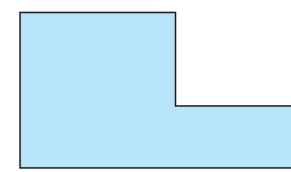
演繹

帰納

発展

5年 p.9

広げて考える



正方形や長方形の面積の公式を使って、こんな形の面積も求められたよ。



例示として前の学年で学んだことを取り上げ、本学年でいかすことができるようにしています。

学びをつなげよう

巻末では、前の巻までの学習事項と本冊でのつながりをまとめ、
既習事項を子どもたちがいつでも確認できるようにしました。

次の学習に繋がる見方・考え方を示しています。

図を豊富に入れ、わかりやすい紙面にしました。

学びをつなげよう 2年までに学習したこと

1000 をとる数 (2年)

1000 を 10 まで集めた数を一万といひ、10000 とかく。

1000 を 10 まで集めた数を一万といひ、10000 とかく。

かけ算 (2年)

$4 \times 3 = 12$ の 3 つ分、4 の 3 倍

同じ数ずつあるときは、かけ算の式にかけね。

かける数が 1 ふえると、答えはかけられる数だけふえる。

かけ算の式とかけられる数を入れかえても、答えは同じ。

九九の表とかけ算、わり算、あまりのあるかけ算

数や式の大小 (2年)

150 は 90 + 70 より 小さい 150 < 90 + 70
150 は 90 + 60 と 同じ 150 = 90 + 60
150 は 90 + 50 より 大きい 150 > 90 + 50

() を使った式 (2年)

() の中はききに計算する。
 $2 + (3 + 4) = 2 + 7$
じゆんにたしても、まとめたとしても、答えは同じ。
 $2 + 3 + 4 = 2 + (3 + 4)$

長さ (2年)

長さは、1cm などいくつ分あるかで表せる。

cm など…長さのたいい

1cm = 10mm, 1m = 100cm

長さの計算

4cm5mm + 2cm3mm = 6cm8mm

かさ (2年)

かさは、1L などいくつ分あるかで表せる。

1L = 10dL, 1dL = 100mL, 1L = 1000mL

かさの計算

1L5dL + 1L = 2L5dL

表とグラフ (2年)

表

グラフ

表は、数がわかりやすい。グラフは、数の多い少ないがわかりやすい。

3上 p.142 ~ 143

既習事項が繋がる本冊単元を示しています。

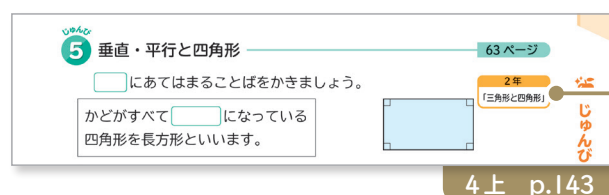
学びに向かう力の育成・評価

習熟度や興味・関心などに応じて子どもたち一人ひとりが取り組める問題や教材を単元の入口から出口まで全体にわたって設定しました。

協働的な学習と個別最適な学びを両立し、日々の学習を通して「学びに向かう力」を育むことができるよう構成しています。

じゅんび

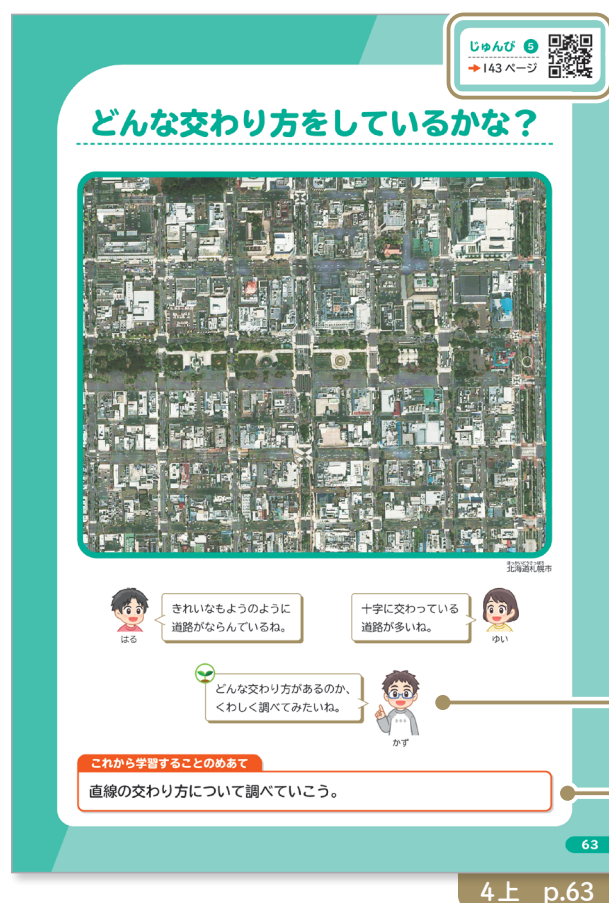
足並みをそろえて協働的な学びに向かっていけるよう、すべての基本単元にレディネスチェックを用意しています。



これまでの学習との繋がりを示し、個に応じてふり返ることができるようにしています。

単元とびら

単元の入口では身のまわりのことがらや既習事項を取り上げて、興味や関心を持って新しい学習へと入っていけるようにしています。



巻末「じゅんび」へのリンクです。デジタルコンテンツも用意しています。
→ p.12

単元のとびらにも「学びのめばえ」を設定し、主体的・協働的に学習を進められるようにしています。

「これから学習することのめあて」は、単元全体を通してどのようなことを学ぶかを示しています。

学びのまとめ

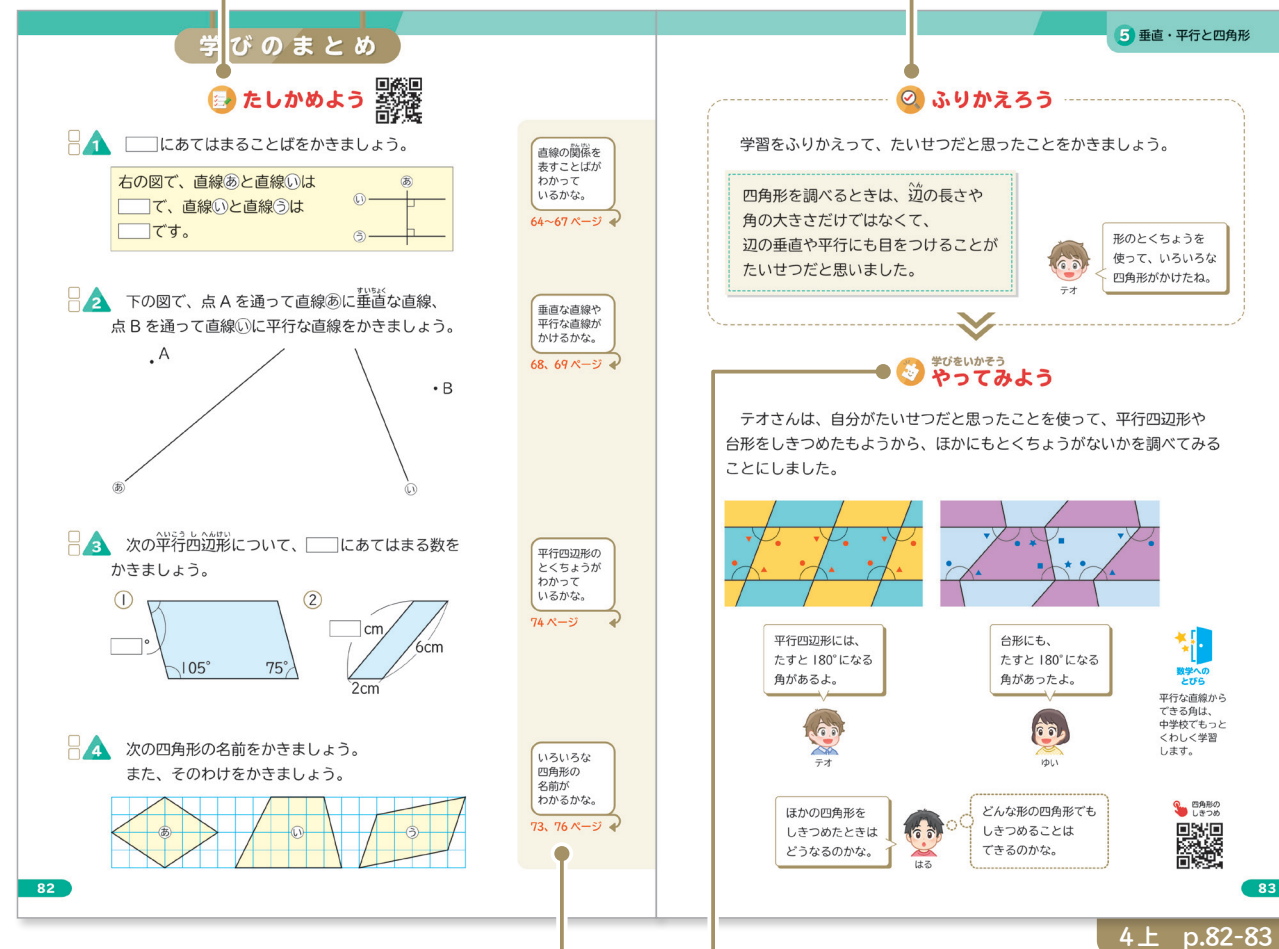
単元の出口「学びのまとめ」は評価の3観点に沿って構成しています。子どもたちが自身の理解を確かめ、習熟度や興味・関心に応じてふり返ったり、発展的に考えたりすることができるようにしています。

たしかめよう

知識・技能に関する問題と思考力・判断力・表現力に関する問題を取り上げています。

ふりかえろう

単元全体をふりかえる場面を設け、大切な見方・考え方などを確認します。



問題のねらいや学習したページを示してふり返ることができるようにしています。デジタルコンテンツからは、ヒントや答えも確認できます。
→ p.12

学びをいかそう やってみよう

さらに発展的に考えたり、活用・探究に取り組んだりする児童の姿を取り上げています。探究活動をうながすコンテンツを用意しているところもあります。

主体的に学習に取り組む態度を育成・評価するには？

主体的に学習に取り組む態度は、ペーパーテストでは育成・評価が難しいとされています。そこで、単元の出口には習熟度評価の問題に加え、自らの学びを総括する場面や、学んだことをもとに活用・探究に取り組む場面を設け、態度面の育成・評価も図れるようにしています。

基礎・基本の定着

協働的な学びを通してわかったことの定着を個に応じた図ることができるよう、練習や復習のコーナーを設けています。

もっと練習

本文にある練習問題に加え、巻末「もっと練習」に補充問題や挑戦問題を用意し、習熟度に応じて取り組むことができるようにしています。

4下 p.34

4下 p.121

練習・復習

単元および年間を通して、学習したことが確実に身につけられるように練習や復習のページを計画的に配置しています。

4上 p.44

5年 p.100 ~ 101

デジタルコンテンツからは、ヒントや答えも確認できます。→ p.12

どこで学習したかを示して、ふり返られるようにしています。

全国学力調査でのつまずきへの対応は？

復習ページでは全国学力調査などで正答率の低かった問題を扱い、❶のマークを付けて示しています。練習ページでは「よくあるまちがい」を適宜取り上げて、基礎・基本の確かな定着が図れるようにしています。

思考力の育成

「見方・考え方を深めよう」や「だれでしょう」などのコーナーでは、数量の関係や問題の条件に着目して解決する文章題を扱い、思考力のさらなる育成を目指しています。

見方・考え方を深めよう

数量の関係や変化を図や表に整理して解決する文章題を扱っています。各学年の学習内容との関連にも配慮し、系統的に配置しています。

5年 p.172 ~ 173

見方・考え方を深めよう一覧

学年	ページ	内容
2年	上 p.64 ~ 71	加減の逆思考、文と図と式
	上 p.114 ~ 117	増減をまとめて考える（順思考）
	下 p.56 ~ 59	求大・求小の逆思考
3年	上 p.32 ~ 35	増減をまとめて考える（逆思考）
4年	下 p.30 ~ 31	3要素2段階の加減乗除（逆思考）
	下 p.68 ~ 69	二次元表を用いた分類・整理
	p.172 ~ 173	変数が1つの場合の変わり方のきまり
5年	p.94 ~ 95	変数が1つの場合の変わり方のきまり
	p.172 ~ 173	相殺・置換の考え方
	p.240 ~ 241	出会い算・追いつき算
6年	p.124 ~ 125	変数が2つの場合の変わり方のきまり
	p.182 ~ 183	つるかめ算
	p.198 ~ 201	全体を1とみて考える（割合）

順序に関する文章題

順序数と集合数が混在する問題を図を使って解決します。

3下 p.50

順序に関する文章題

学年	ページ	内容
2年	下 p.62 ~ 63	順序数と集合数（植木算の素地）
3年	下 p.50 ~ 51	植木算（基本）
5年	p.188 ~ 189	植木算（発展）

推論に関する文章題

条件を整理して論理的に推論を重ねて解決します。

4下 p.54

推論に関する文章題

学年	ページ	内容
4年	下 p.54 ~ 55	素朴な場面での論理的解決
6年	p.202 ~ 203	やや複雑な場面での論理的解決

活用・探究

身のまわりの場面に算数で学んだことを活用したり、算数で学んだことを探究したりするコーナーを設け、**活用・探究**といった数学的活動の充実を図りました。

見積もりを使って

※1～3年生では「買えますか？ 買えませんか？」

計算の仕方ではなく結果に目を向けて、数の見方・考え方を活用することで、**AI時代にも大切とされる見通しをもつ**力を伸ばします。

教科書ページ 4上 p.96～97。テーマは「公園をきれいに！」。1. クラスで、7つのグループに分かれて空きかんを集めました。それぞれのグループが集めたかんのこ数は、下の表のようでした。2. はるさんは、集めたかんのこ数の合計がおよそ何になるかを、下のよう考えて見積もりました。3. かんのかんの合計を計算し、2とくらべてみましょう。

算数の自由研究

探究活動の楽しさに触れられるよう、夏休みの前に自由研究のコーナーを設けています。図形の見方・考え方を深める活動を例示しています。

教科書ページ 2上 p.98～99。テーマは「算数のじゅうけんぎょう」。1. ぐるっと回るせんろをつくりましょう。2. つくったせんろを はっぴょうしましょう。

わくわくプログラミング ➡ p.16 わくわくSDGs ➡ p.18

未来へのとびら

算数で学んだ知識や考え方を深め、いろいろな形で役立てている人の姿を知ること、子どもたち自身の学びを未来へと広げます。

4名の方々にインタビューし、今のお仕事に算数がどのようにいきているかを教えていただきました。



ミニチュアアーティスト
みずこし きよたか
水越 清貴 さん



情報科学者
いがらし あゆみ
五十嵐 歩美 さん



スポーツデータ研究者
かげゆき たかふみ
景行 崇文 さん



ロボットエンジニア
たなか あきちか
田中 章愛 さん

未来へのとびら お仕事インタビュー。ミニチュアアーティスト 水越 清貴 さん。お仕事の中で算数の考え方を使うことはありますか？

ミニチュアアーティストの水越さんは、今回の教科書の表紙も担当してくださっています。



表紙のヒミツは？

表紙の写真は、実際にノートに描いたトリックアートを撮影したものです。裏表紙の原画をある角度から撮影すると表紙のように立体に見える写真を撮影することができます。



幼保小の接続

1年生のスタートカリキュラムでは、幼児期の体験を小学校の学習へとつなげ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう姿勢を育むことが重要です。

すたあと
ぶつく

1年生の教科書を分冊にして、1冊目の「すたあと ぶつく」(A4版・中とじ)でスタートカリキュラムに対応しています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、算数の学びへなめらかに接続できるよう内容を構成しています。

幼稚園教育要領や保育所保育指針には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。その中でも特に算数と関連する項目として、数・図形領域の4単元を取り扱いました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(抜粋)

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

すたあと ぶつく 取り扱い単元

- ① かずと すうじ(1~10の数)
- ② なんばんめ(順序数)
- ③ いくつと いくつ(数の合成・分解)
- ④ いろいろな かたち(立体の直感的弁別)
- (①②③:数 ④:図形)

各単元のはじめには、**単元で学ぶ数量や図形の概念の獲得につながる幼児期の体験のダイナミックな写真**を問いかけの文とともに掲載しています。



日常体験や遊びの場面を思い出しながら、いきいきと算数の学習に入ることができるね。



1年① p.20~21



ようちえんでも じゅんばんにならんだ ことがあるよ。



ほいくえんの こいのぼりが おおきくて かっこよかったな。ちいさい こいのぼりは こどもたちかな。

算数の学習へ



1年① p.22~23

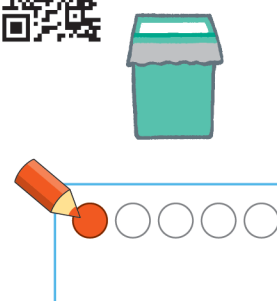
原寸紙面

1年① p.9



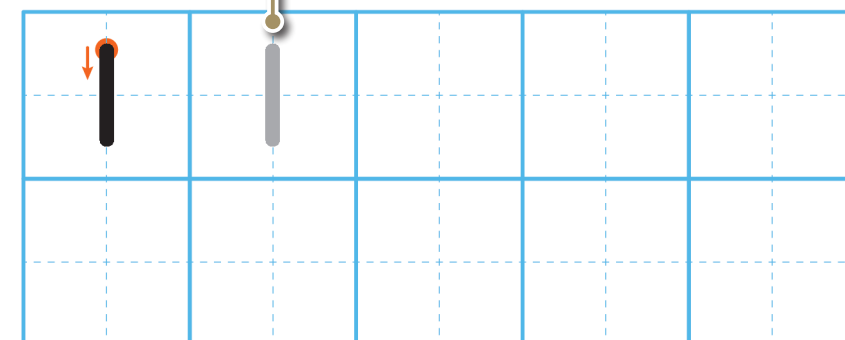
原寸紙面

1年① p.12



いち

書き込みやすい紙を使用しているのですたあと ぶつく1冊で授業ができます。



小中の接続

小学校を卒業する子どもたちには、算数で学んだことをもとに中学校での数学も楽しんでもらいたいもの。子どもたちが**安心して数学への期待感をもてる**ように配慮しました。

数学へのとびら

4年生以上では、「数学へのとびら」マークで算数と数学のつながりを示しているので、**数学への期待感**を高められます。

平行四辺形には、たすと180°になる角があるよ。

台形にも、たすと180°になる角があったよ。

平行な直線からできる角は、中学校でもっとくわしく学習します。

4上 p.83

ふりかえろう

学習をふりかえて、たいせつだと思ったことをかきましよう。

合同な三角形や四角形をかくには、頂点がきまるように、辺の長さや角の大きさを調べることがたいせつだと思いました。

四角形は、2つの三角形に分けるとかいたね。

合同な図形は、中学校でもっとくわしく学習します。

学びをいかそう やってみよう

5年 p.93

はってん

算数の学習に関連した**発展的な内容**も多く取り上げています。必要に応じて取り扱うことで、算数の学習を深められます。

学びをいかそう やってみよう

かずさんは、自分がたいせつだと思ったことを使って、1から20までの整数の約数を調べてみることにしました。

整数	約数	個数
1	1	1個
2	1, 2	2個
3	1, 3	2個
4	1, 2, 4	3個
5	1, 5	2個
6		個
7		個
8		個
9		個
10		個

約数が多いのは、12、18、20で、6個ありました。

2、3、5などのように、1とその数の2個しか約数がない整数のことを素数といいます。

5年 p.113

算数ポケット いろいろな変わり方のグラフ

1分あたりに入れる水の量をきめて、いれものに水を入れます。次のグラフは、あるいれものに水を入れたときの時間x分と水の深さycmの関係を表したものです。

いれものの形は、次のうちのどれかわかりますか。

6年 p.169

6年のまとめ

6年生の巻末では、算数で学習した内容を総復習し、**どのように数学に繋がるか**を紹介しています。算数での学びを振り返り、数学へのステップにできます。

領域ごとに算数で学んだことを総復習します。

1つ目の国

数と式

2つ目の国

計算と見積もり

3つ目の国

図形と量

4つ目の国

変化と関係

5つ目の国

データの活用

6つ目の国

問題の見方・考え方

1つ目の国 数と式

整数・小数・分数

1 次の数を数直線に表しましょう。
 $\frac{1}{10}$, 0.3, $\frac{4}{5}$, 2.3, $\frac{7}{5}$

2 下の数直線の①、②、③、④にあたる数をかきましよう。

3 次の数の100倍、 $\frac{1}{100}$ の数をかきましよう。
① 47800 ② 350 ③ 2.4

4 □にあてはまる数をかきましよう。
① 450000は、1000を□個集めた数です。また、1万を□個集めた数です。
② 25.4は、0.1を□個集めた数です。また、0.01を□個集めた数です。

5 四捨五入で、 $\frac{1}{10}$ の位までの概数で表しましょう。また、上から2けたの概数で表しましょう。
① 2.37 ② 50.64 ③ 549.867

6 最小公倍数、最大公約数をそれぞれかきましよう。
① 4, 12 ② 14, 21 ③ 25, 30

6年 p.210



数学は全く新しい教科ではなく、算数の学びの延長線上にあるということがわかるね。

数学へのとびら 0より小さい数

算数 算数で学んだいろいろな数についてまとめてみましょう。

整数 0, 1, 2, 3, ...

小数 0.1, 3.14, 42.195, ...

分数 $\frac{1}{10}$, $\frac{1}{2}$, $\frac{2}{3}$, $1\frac{1}{4}$, ...

1より小さい部分があるときには、小数や分数を使ったね。

どんな数でも数直線に表すことができたね。

数学 数学では、算数で学んだ数の世界をさらに広げていきます。右の絵は、きのうの気温ときょうの気温を調べたものです。きのうの気温3度は、0度より3度高いことを表しています。きょうの気温-2度は、マイナス2度とよみ、0度より2度低いことを表しています。

正の数・負の数 -2のように、0より小さい数を負の数といいます。3のように、0より大きい数を正の数といいます。負の数考えるときは、0の左側にも数直線をのばしていきます。

6年 p.213

各領域の最後では、算数で学んだ見方・考え方をいかして、数学で学ぶ内容の紹介をしています。

合冊構成

5・6年は**合冊構成**にすることで、1年間の学びを見通す力を無理なく育むとともに中学校の1冊構成に慣れ親しむことができます。

統計・割合

統計

PPDAC のプロセスを意識した紙面構成で、これから必要となる統計的な問題解決力を育成します。

児童の身近な題材から、問題意識がめばえやすい展開にしています。

単元の学習の中で自然に PPDAC サイクルに触れられるように構成しています。

3上 p.72 ~ 73

5・6 年では、単元で学習した内容を使って PPDAC サイクルを振り返るページを設けています。

6年 p.118 ~ 119

PPDAC サイクルとは？

① Problem (問題)、② Plan (計画)、③ Data (データ)、④ Analysis (分析)、⑤ Conclusion (結論) の 5 段階からなる、統計的探究プロセスの 1 つです。このプロセスを繰り返すことで、データを活用しながら仮説を検証し、課題解決につなげていくことができます。平成 29 年告示の学習指導要領解説でも取り上げられており、目的をもったデータの分析を行う上で重要なフレームワークだと注目されています。

割合

割合の理解には、数量の倍関係をとらえることが重要です。5 年生の小数の乗除の場面で割合単元を新設するなど、各用法をまとめて取り扱えるよう **系統を見直しました**。

第 1 用法

- 割合を求める
- a の \square 倍が $c \cdots c \div a = \square$

第 2 用法

- 比べる量を求める
- a の b 倍が $\square \cdots a \times b = \square$

第 3 用法

- もとにする量を求める
- \square の b 倍が $c \cdots c \div b = \square$

図のかき方に問題文の解釈 (関係文) の要素も入れ、より倍関係をとらえやすい展開としています。

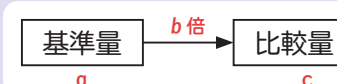
3下 p.16

割合の 3 つの用法を統一的にまとめたコラムを 4・5 年生に掲載しています。

5年 p.73

関係図とは？

問題文から倍関係を抜き取って「基準量」「割合」「比較量」をかき表した図です。



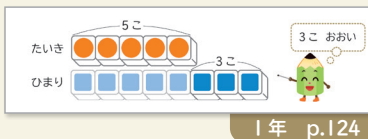
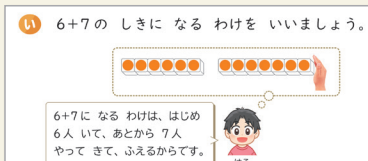
5 年生では、割合の内容を各学期に配置しているので習熟を図ることができます。

学年	ページ	学期	単元名	内容
2 年	下 p.10 ~ 11	2 学期	⑩かけ算 (1)	倍の意味
3 年	下 p.13 ~ 19	2 学期	⑫何倍でしょう	整数の場合の 3 つの用法
4 年	上 p.128 ~ 135	2 学期	⑨割合	整数の場合の 3 つの用法
	下 p.48 ~ 49	2 学期	⑫小数のかけ算とわり算	小数の場合の第 1 用法
	p.68 ~ 75	1 学期	⑥割合 (1)	小数の場合の 3 つの用法
5 年	p.174 ~ 187	2 学期	③割合 (2)	割合の 3 つの用法 百分率、歩合
	p.206 ~ 215	3 学期	⑮割合のグラフ	円グラフ、帯グラフ
6 年	p.64 ~ 67	1 学期	⑤分数 ÷ 分数	分数の場合の 3 つの用法
	p.198 ~ 201	3 学期	見方・考え方を深めよう	全体を 1 とする見方

演算決定に関わる図の系統 テープ図・線分図、数直線図、関係図

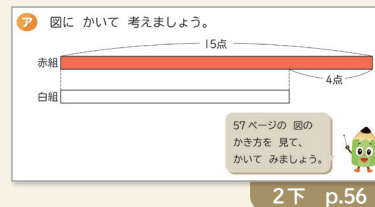
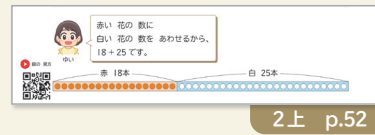
1 年

基礎操作（加法・減法）



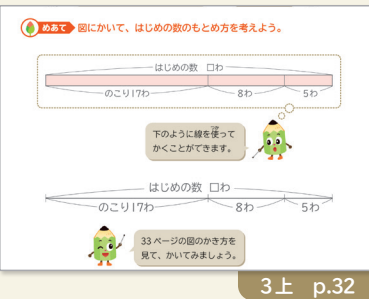
2 年

テープ図（加法・減法）

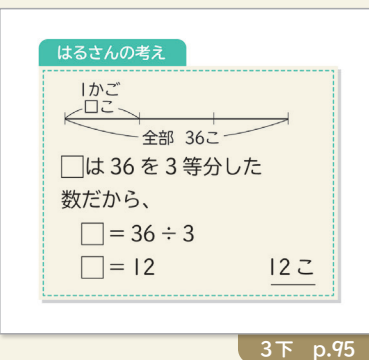


3 年

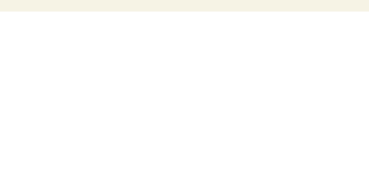
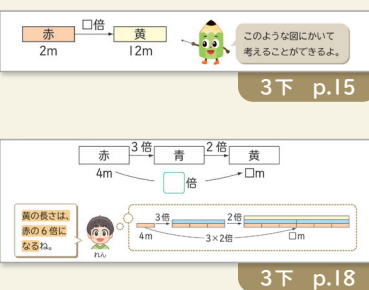
線分図（加法・減法）



線分図（乗法・除法）

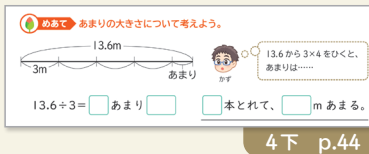


関係図（割合の素地）

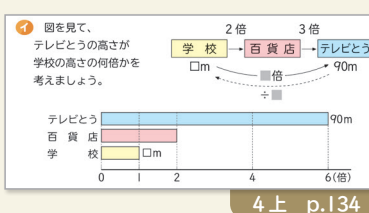
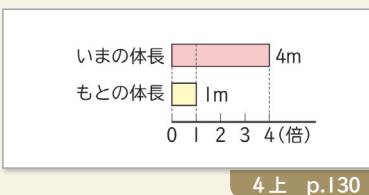
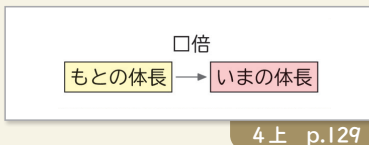


4 年

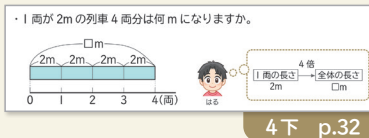
線分図（乗法・除法）



関係図・数直線テープ図（割合）

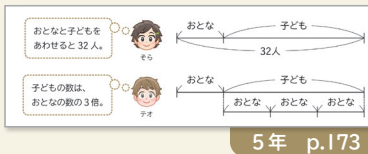


関係図・数直線図（乗法・除法）

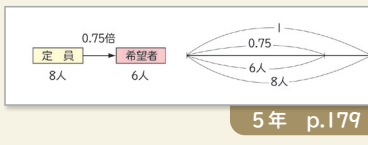


5 年

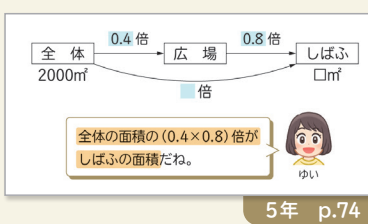
線分図（相殺・置換）



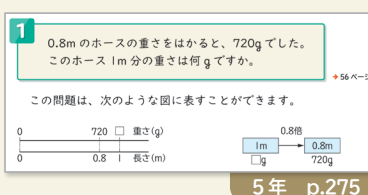
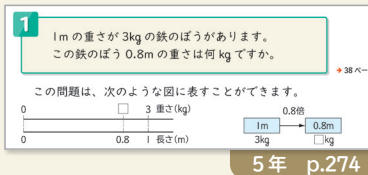
関係図・線分図（割合）



関係図・数直線テープ図（割合）

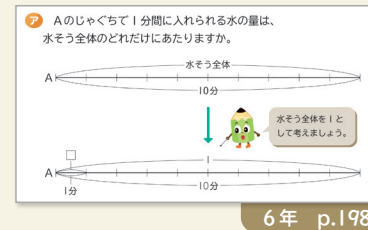


関係図・数直線図（乗法・除法）



6 年

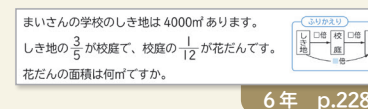
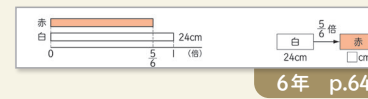
線分図（割合）



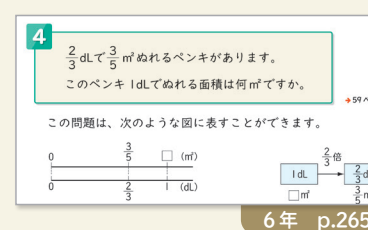
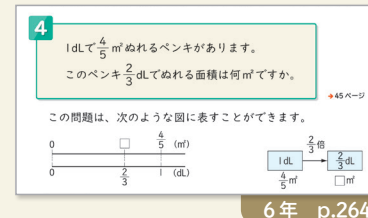
関係図・線分図（割合）



関係図・数直線テープ図（割合）



関係図・数直線図（乗法・除法）



基礎操作から図的表現へ（加法・減法）

第1学年から第3学年にかけて、具体的な操作を図的に表現していく過程を丁寧に示しています。

数図ブロック(1年) → テープ図(2年) → 線分図(3年)

テープ図や線分図のかき方は、操作の手順と揃うように配慮しています。

数量関係に着目するために（乗法・除法）

第3学年からは、数量関係に着目して、演算等を考えることができるようにしています。

数量関係の主なものとしては、次のような3つがあります。

- 関係① 異種の2量の関係（比較）
- 関係② 同種の2量の関係（倍・割合）
- 関係③ 全体と部分の関係（割合）

どの場合にも問題文から「aのb倍がc」という文脈を読み取ることがとても大切ですので、それを表す**関係図**を第3学年から一貫して扱っています。

また、数量の大きさを表した図も問題に即して扱っています。

- 関係① 数直線を2本並べた図（数直線図）
- 関係② 数直線とテープを並べた図
- 関係③ 線分図

なお、線分図は、中学校数学でも方程式の立式といった「等しい関係」をとらえる際に使われます。

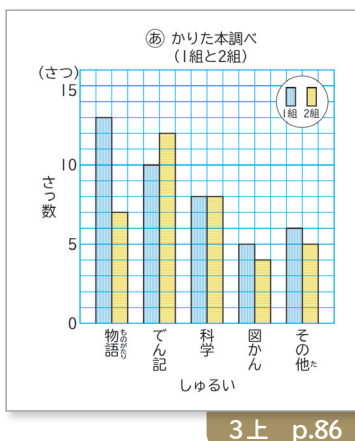
今日的な教育課題への対応

ユニバーサルデザイン



色覚の個人差を問わず、誰もが紙面の内容を判別しやすい配色・デザインにしています。メディア・ユニバーサル・デザインの認証を申請中です。

すべての児童が支障なく学習できるよう、様々な特性を考慮しインクルーシブ教育に対する配慮をしています。



グラフは、色のみでなく模様でも区別ができるようにしています。



色だけではなく文字情報も加えて誰もが支障なく学習できるようにしています。

UD FONT

ユニバーサルデザインフォントを採用し、視覚の個人差で学習の理解に支障がないように配慮しています。

1 入場けん1まいと乗り物けん7まいを買った、1200円になりました。入場けん1まいと乗り物けん5まいでは、1000円になるそうです。乗り物けん1まいのねだんは何円ですか。

5年 p.172

児童が読みやすいよう、すべての文章を文節で改行しています。

国際理解・多様性の尊重

外国ルーツの方やジェンダー、福祉についても配慮しています。

キャラクター



外国ルーツの子どもや車いす、めがねを使用している子どもなど様々な特徴を持つ方を掲載し、多様性を認める紙面になるよう配慮しました。

国際理解



他教科関連

様々な教科と関連した題材を取り扱っています。

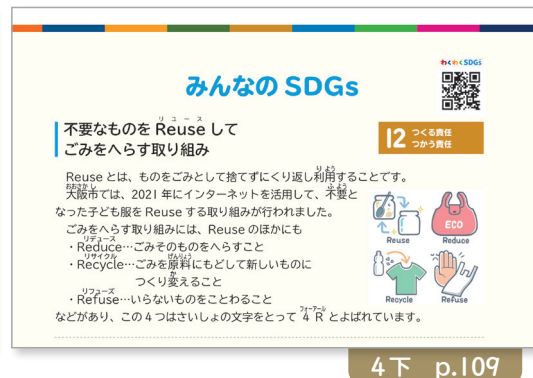
国語



理科



英語



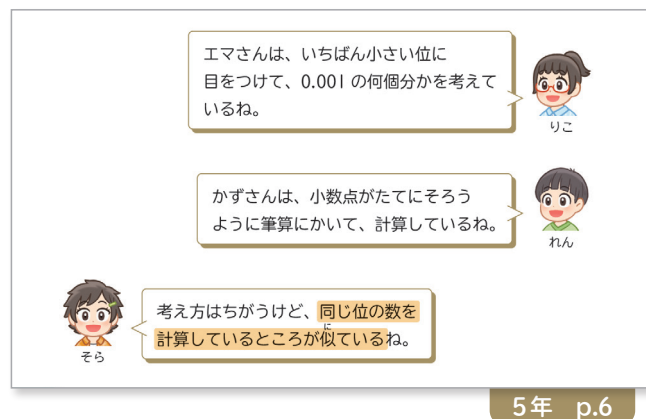
道徳との関連

算数科の特質に応じて、道徳的な態度を育成します。

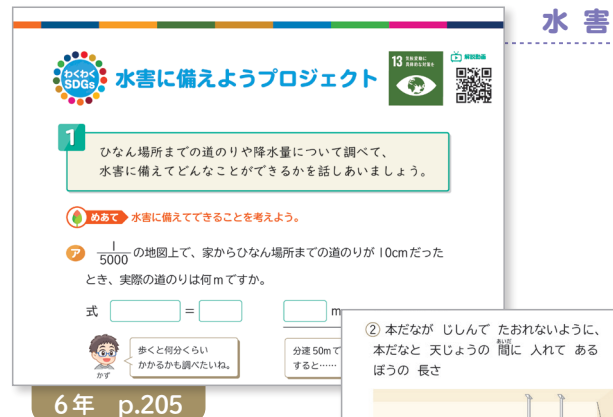
勤労、公共の精神



相互理解、寛容



防災・安全



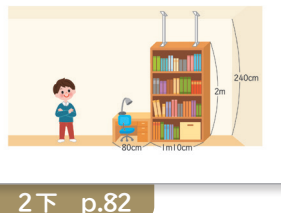
水害

伝統・文化

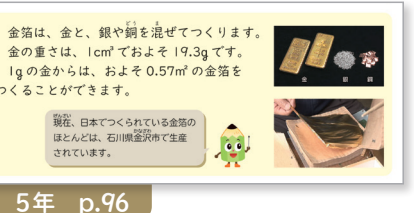


そろばん

地震



金箔工芸

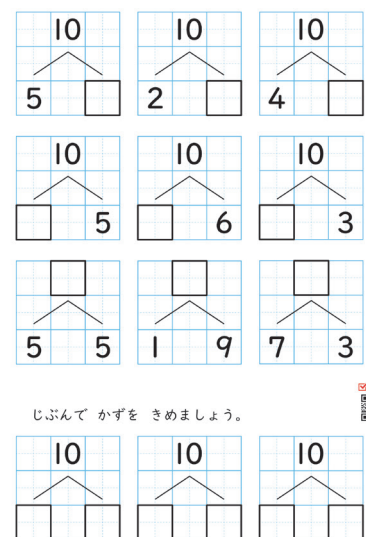


1年の特色

数学的活動の充実

「いくつといくつ」では、いわゆるさくらんぼ図を取り入れ、**操作から定着**へとスムーズに学習できるようにしました。スタートカリキュラムに配慮するとともに、ここで学んだことがその後のたし算・ひき算でもいかされるようにしています。

すたあと ぶっく → p.32



1 ① p.37

2 なんじなんぶんですか。



1年 p.113

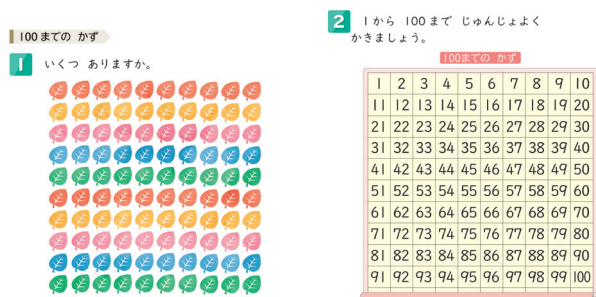
つまずきへの対応

1年生にとって、アナログ時計の読み方はつまずきやすい内容です。特に、9時57分などの時刻のときに短針に近い数字を読み「10時57分」などと誤答してしまうことが多くあります。そこで、時計の読み方を丁寧に示すとともにだいたい何時ごろかを見積もることで**今が何時台であるか**を意識できるようにしています。

ずっと大切にしていること

100までの数表はなぜ1から始まっているのですか？

1年生では、具体的なものの数と対応させながら数を学習していきます。100までの数においても、具体物と対応させながら学べるよう数表を1から始めるようにしています。啓林館では具体と抽象とを往還して学びを深めていくことを大切にしており、具体物の代わりに図を使って数や量を表して考えていく2年生の学びへとスムーズにステップアップできるように配慮しています。



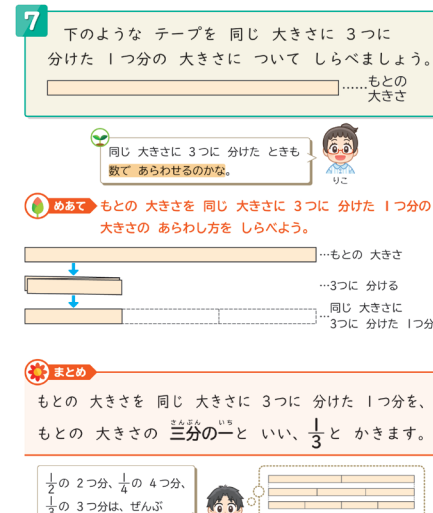
1年 p.102 ~ 103

2年の特色

数学的な見方・考え方

2年生から巻頭に「考えのすすめ方」を設けるなどして、数学的な見方・考え方を明確化しています。特に、「**図を使って考える**」ことについては、1年生で行った具体操作をもとにしながら丁寧に取り扱いしました。

図の系統 → p.38



2下 p.107

学びやすく教えやすい工夫

2年生では、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ などの簡単な分数を学習しますが、その中でも、 $\frac{1}{3}$ は「半分」の操作では作れないため理解が難しい概念です。そこで、配当時数を1時間増やし、操作を取り入れてより丁寧に展開しました。

ずっと大切にしていること

どうして17 + 4や21 - 8のような暗算を学習するのですか？

暗算の学習は、児童の数感覚を豊かにするとともに、計算技能を向上させるために取り上げています。数感覚を豊かにすることは計算結果の見積もりや誤りの発見に役立ちますし、簡単な計算は暗算でできるようにしておくことで後の学習に取り組みやすくなります。例えば、3年生で学習する 46×7 のような筆算では、十の位の計算で $28 + 4$ の暗算を行う必要が出てきます。



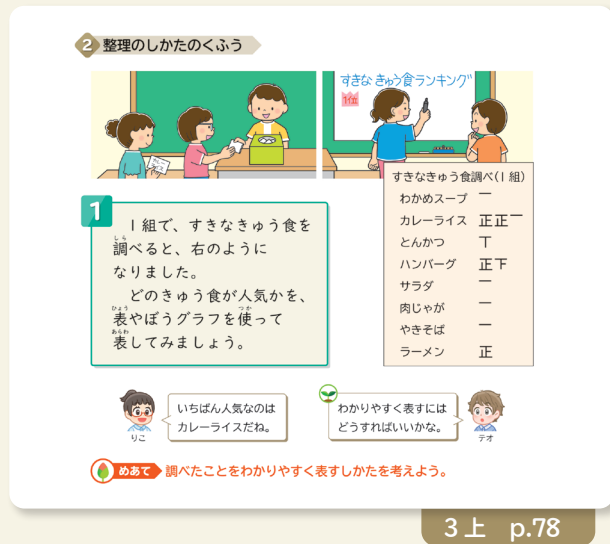
2上 p.20

3年の特色

主体的な学びの実現

「表とグラフ」は、児童がより主体的に学べるように単元の指導計画を一新しました。教え込みになりがちな「その他」や「並べ替え」も、「わかりやすく整理したい」という

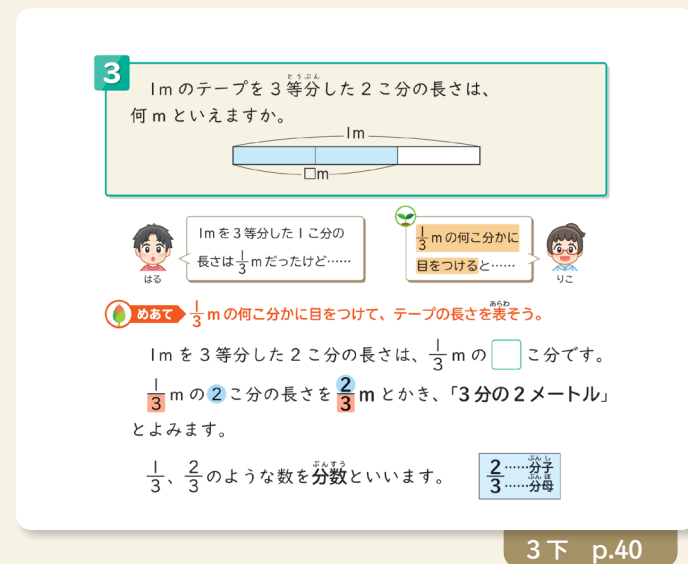
児童の思いから導入できるようにしています。



3上 p.78

数学的な見方・考え方

「分数」は、2年生で素地的な学習があり、3年生で「単位分数のいくつ分」という見方で分数の意味をとらえていきます。この「**単位に着目する見方**」は後の学習でも重要であることから、分数の意味と表し方との関連を明示しました。



3下 p.40

ずっと大切にしていること

分数を小数より先に学習する意図は何ですか？

啓林館では、前項で述べた「単位に着目する見方」など、数学的な見方・考え方を児童が働かせながら理解を深められるよう配慮しています。

分数と小数の学習では、「1に満たない大きさを表すために「1の何等分を単位とするか」を考えることが大切です。

分数を先に取り上げることで、目的に応じて単位を調整することの必要性を児童に感得させ、その経験をもとに小数の学習に取り組ませることで、1の10等分を単位とするよさを感じ取りやすくなるようにしています。

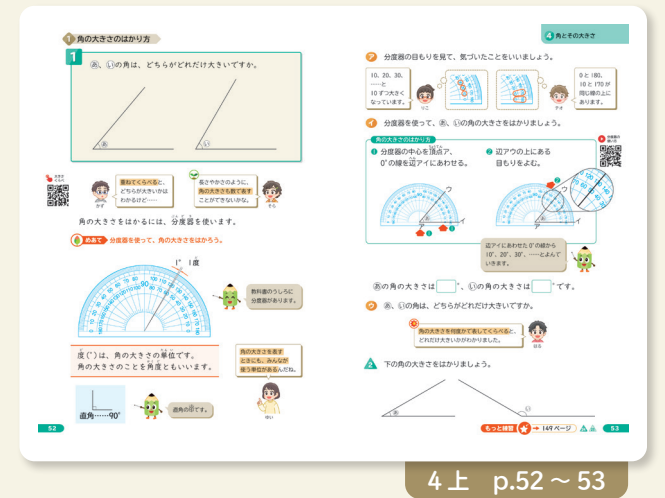


3下 p.38 ~ 39

4年の特色

基礎・基本の定着

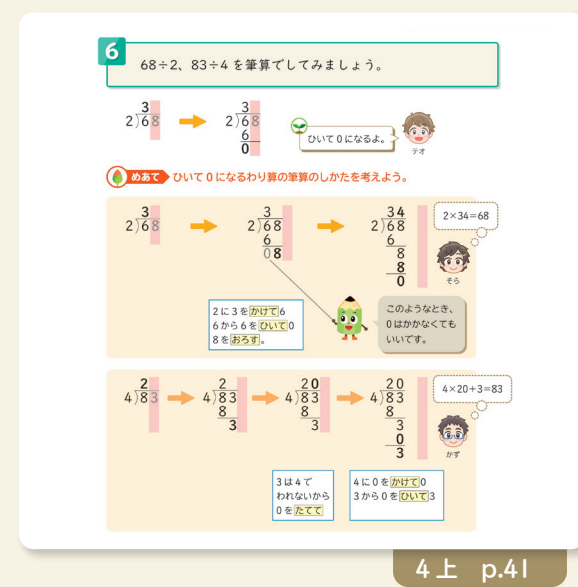
「角とその大きさ」では**分度器の付録**をご用意しています。クラス全員で同じ分度器を使うことで、基本的な使い方や測定の工夫についての学習や指導をスムーズに行うことができます。また、QRコンテンツとして角のはかり方やかき方の手順を確認できる動画なども用意しています。



4上 p.52 ~ 53

つまずきへの対応

筆算の学習では、空位ができたり桁が異なったりすると、計算の手順をうまく踏めなくなる子どももいます。啓林館では、2年生の加減の筆算から筆算では**計算の型**を細かく分けた指導計画を立てています。また、つまずきやすい型の筆算についても紙面で手順を丁寧に示しています。



4上 p.41

ずっと大切にしていること

「見積もりを使って」というコーナーを設定しているのはなぜですか？

子どもたちにとって数量を見積もることやそれを判断にいかすことは簡単なことではありませんが、「生きる力」としてはとても大切であるといえます。そこで啓林館では、4年生で四捨五入や切り上げ・切り捨てを学習する前にも、それまでに培った数感覚をもとに見積もりを判断する問題を設定しています。1～3年生では「買えますか？ 買えませんか？」、4～6年生では「見積もりを使って」というコーナーを設け、系統的に「見積もる力・判断する力」の育成を図ることができるようにしています。

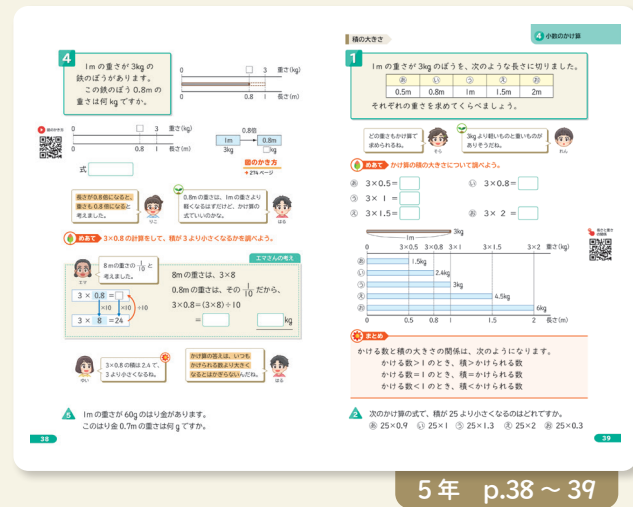


4上 p.96 ~ 97

5年の特色

つまずきへの対応

小数のときのかけ算やわり算の意味を理解することは、整数のときとは違ってとても難しいことです。特に、整数のときの「かけると、もとの数より大きくなる」「わると、もとの数より小さくなる」という感覚は、小数になるといつでも通用するわけではありません。そこで今改訂では、もともと丁寧な展開だった**純小数（1より小さい小数）をかける計算、純小数でわる計算**について、配当時間を1時間増やしてさらに手厚く扱っています。

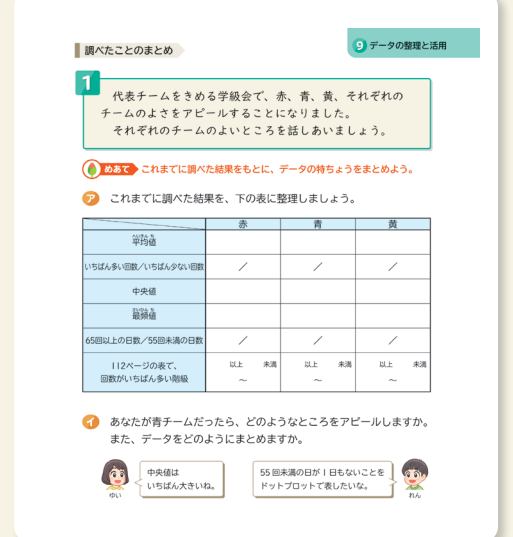


5年 p.38～39

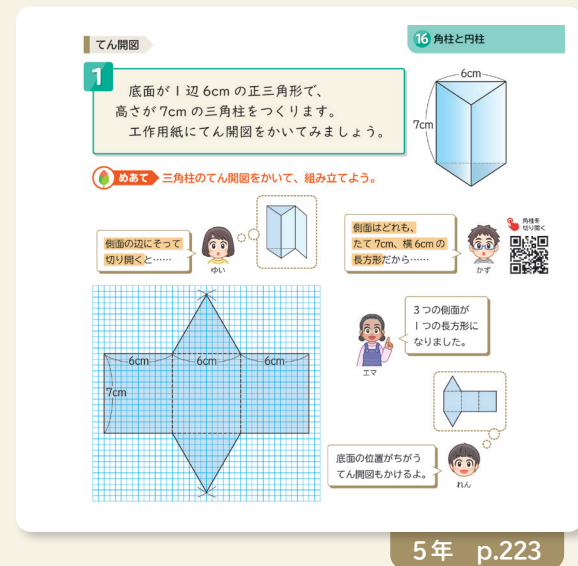
6年の特色

数学的活動の充実

「データの整理と活用」では、データの特徴を代表値や散らばりに着目して考察する活動に取り組みます。単なる知識の習得に留まらないよう、導入場面では3チームの中から代表を決めるという目的を設定し、最後には調べたことを整理してプレゼンする活動を設けるようにしました。**目的意識を持って分析**し、それを根拠として判断したり、人にわかりやすく伝えたりする力を育てるように配慮しています。



6年 p.117



5年 p.223

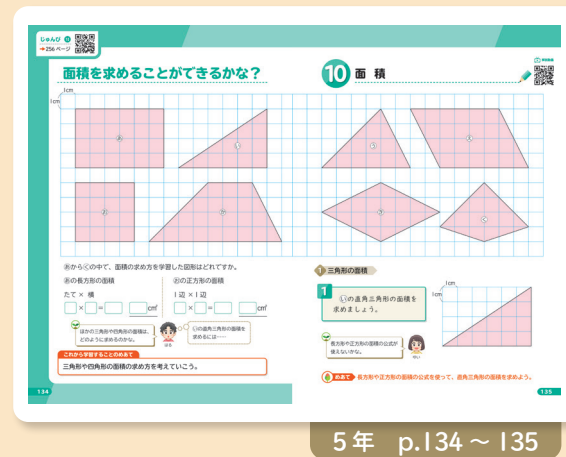
ICTの活用

「角柱と円柱」では、立体を自由に動かして観察・考察できるコンテンツを用意しています。特に、**立体の展開**は実演がないと理解が難しい内容ですが、実物を用意すると時間がかかってしまいます。コンテンツをご利用いただくことで、授業準備の負担が軽減されるとともに、子どもたちのよりスムーズな理解も図ることができます。

ずっと大切にしていること

「面積」の学習で、三角形から導入している意図は何ですか？

「面積」の学習では、直角に着目して底辺と高さを見つけることが大切です。そのため、直角に着目しやすい直角三角形から導入し、一般の三角形、平行四辺形へと展開していくようにしています。また、「合同」の学習と同じように平面図形における数学的な見方・考え方として、三角形の場合をもとに他の図形について考えていくことができるようになっていくことも特長といえます。つまずきの多い高さが外にある場合については、三角形と平行四辺形を同時に扱うことで、底辺・高さの概念の統合的な理解が図れるようにしています。



5年 p.134～135

ずっと大切にしていること

「場合の数」で、先に組合せを扱っているのはなぜですか？

算数での「場合の数」の扱いは、中学校や高等学校の数学とは異なり、表や図などを使ってすべての場合を書き出します。場合の数を初めて学習する子どもたちにとっては、書き出す数が少ない組み合わせのほうが順列よりも易しいと感じられるため、組み合わせを先に扱うようにしています。また、お菓子選びやリレーの順番といった子どもたちの生活経験においても、「選び方を考えて並べ方を考える」という思考の流れは自然なものといえます。



6年 p.70～71

単元一覧表

1 年		
	単 元	指導 時数
前期	わくわく すたあと・わくわく がっこう	3
	1. かずと すうじ	7
	2. なんばんめ	3
	3. いくつと いくつ	7
	4. いろいろな かたち	3
	さんすう みつけた!	1
	5. ふえたり へったり	1
	6. たしざん (1)	7
	ふくしゅう	1
	7. ひきざん (1)	10
	8. かずしらべ	1
	ふくしゅう	1
	9. 10 より おおきい かず	8
	ふくしゅう	1
	10. なんじ なんじはん	1
	11. おおきさくらべ (1)	5
	12. 3 つの かずの けいさん	4
	ふくしゅう・じゅんぴ	1
	13. たしざん (2)	9
	14. かたちづくり	5
	ふくしゅう・じゅんぴ	1
	15. ひきざん (2)	11
	16. 0 の たしざんと ひきざん	2
後期	17. ものと ひとの かず	3
	わくわく ぷろぐらみんぐ	1
	ふくしゅう	1
	18. 大きい かず	13
	19. なんじ なんぶん	2
	20. おなじ かずずつ	1
	たすのかな ひくのかな	1
	ふくしゅう	1
	21. 100 までの かずの けいさん	4
	22. おおい ほう すくない ほう	2
3 学期	23. 大きさくらべ (2)	1
	かえますか? かえませんか?	1
	もう すぐ 2 年生	3

合計 127 予備時数 9

2 年		
	単 元	指導 時数
前期	算数の とびら	1
	1. ひょうと グラフ	4
	2. たし算と ひき算	5
	3. 時こくと 時間	4
	4. 長さ	8
	5. たし算と ひき算の ひっ算 (1)	11
	ふくしゅう	1
	ほうかご 何する?	5
	6. 100 を こえる 数	12
	7. かさ	6
	買えますか? 買えませんか?	1
	算数の じゅうけんきゅう	1
	ふくしゅう	1
	8. たし算と ひき算の ひっ算 (2)	10
	こんにちば さようなら	3
	9. しきと 計算	1
	ふくしゅう	1
	10. かけ算 (1)	16
	11. かけ算 (2)	13
	12. 三角形と 四角形	10
	かっても まけても!	2
	どんな 計算に なるのかな	1
	何番目	1
	ふくしゅう	1
後期	13. かけ算の きまり	8
	14. 100cm を こえる 長さ	6
	ふくしゅう	1
	15. 1000 を こえる 数	7
	16. はこの 形	5
	17. 分数	5
	わくわく プログラミング	1
	よみとる 算数	1
	もう すぐ 3 年生	3

合計 156 予備時数 19

3 年		
	単 元	指導 時数
前期	算数のとびら	1
	1. 九九の表とかけ算	5
	2. わり算	10
	あれ? たくさんいたのに……	2
	3. たし算とひき算の筆算	10
	ふく習	1
	4. 時こくと時間	4
	5. 一万をこえる数	11
	6. 表とグラフ	9
	7. たし算とひき算	4
	どんな計算になるのかな	1
	算数の自由研究	1
	ふく習	1
	8. 長さ	5
	9. あまりのあるわり算	8
	10. 重さ	8
	ふく習	1
	11. 円と球	8
	12. 何倍でしょう	4
	13. 計算のじゅんじょ	1
	14. 1 けたをかけるかけ算の筆算	11
	15. 式と計算	2
	16. 分数	10
	間の数	2
	わくわくプログラミング	1
	ふく習	1
後期	17. 三角形	8
	18. 小数	11
	ふく習	1
	19. 2 けたをかけるかけ算の筆算	6
	20. 口を使った式	4
	そろばん	1
	買えますか? 買えませんか?	1
	わくわく SDGs	1
	もうすぐ 4 年生	3

合計 158 予備時数 17

4 年		
	単 元	指導 時数
前期	算数のとびら	1
	1. 一億をこえる数	8
	2. 折れ線グラフ	7
	3. 1 けたでわるわり算の筆算	9
	ふく習	1
	4. 角とその大きさ	8
	5. 垂直・平行と四角形	13
	6. 小数	9
	見積もりを使って	1
	算数の自由研究	1
	ふく習	1
	7. 2 けたでわるわり算の筆算	11
	8. 式と計算の順じょ	8
	9. 割合	5
	そろばん	1
	ふく習	1
	10. 面積	10
	11. がい数とその計算	9
	わすれてもだいじょうぶ	2
	12. 小数のかけ算とわり算	16
	どんな計算になるのかな	1
	だれでしょう	1
	ふく習	1
	13. 調べ方と整理のしかた	4
	どれにしようかな	1
	14. 分数	7
	ふく習	1
後期	15. 変わり方	6
	16. 直方体と立方体	11
	わくわくプログラミング	1
	わくわく SDGs	1
	もうすぐ 5 年生	3

合計 160 予備時数 15

5 年		
	単 元	指導 時数
前期	算数のとびら	1
	1. 整数と小数	4
	2. 体積	9
	3. 比例	2
	4. 小数のかけ算	11
	復習	1
	5. 小数のわり算	12
	6. 割合 (1)	4
	7. 合同な図形	11
	もう 1 回! もう 1 回!	2
	どんな計算になるのかな	1
	算数の自由研究	1
	復習	1
	8. 整数	10
	9. 分数	13
	復習	1
	10. 面積	14
	11. 平均とその利用	6
	12. 単位量あたりの大きさ	4
	遊園地へゴー!	2
	13. 割合 (2)	11
	人文字	1
	見積もりを使って	1
	復習	1
後期	14. 円と正多角形	8
	15. 割合のグラフ	6
	復習	1
	16. 角柱と円柱	6
	17. 速さ	6
	18. 変わり方	3
	いつ会える?	2
3 学期	わくわくプログラミング	1
	わくわく SDGs	1
	もうすぐ 6 年生	3

合計 161 予備時数 14

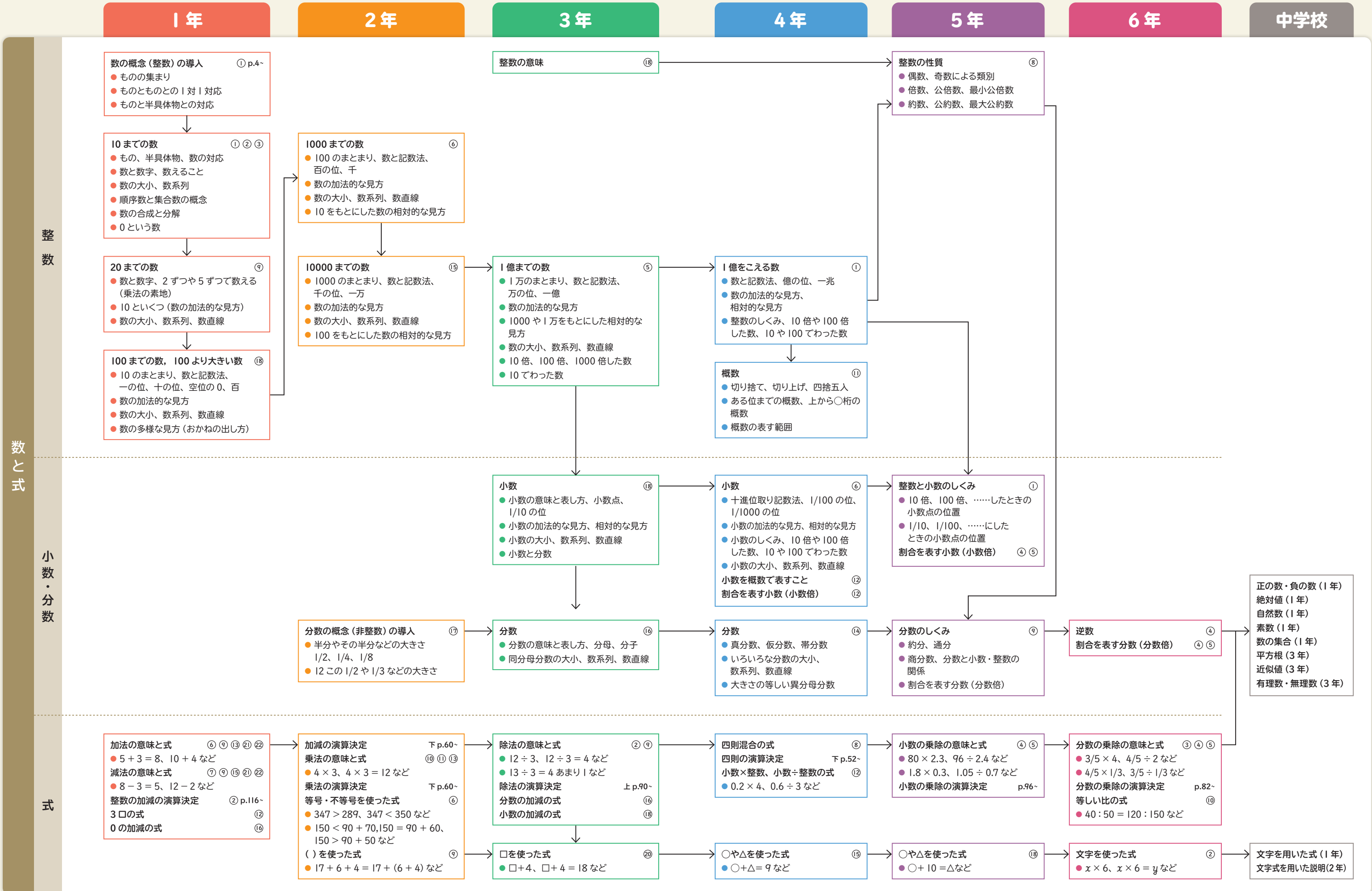
6 年		
	単 元	指導 時数
前期	算数のとびら	1
	1. 対称な図形	9
	2. 文字と式	7
	3. 分数×整数、分数÷整数	3
	復習	1
	4. 分数×分数	12
	5. 分数÷分数	11
	6. 場合を順序よく整理して	9
	どんな計算になるのかな	1
	算数の自由研究	1
	復習	1
	7. 円の面積	5
	8. 立体の体積	5
	9. データの整理と活用	9
	子ども会の準備	2
	復習	1
	10. 比とその利用	8
	11. 図形の拡大と縮小	9
	12. 比例と反比例	14
	ぴったりを探せ!	2
	見積もりを使って	1
	わくわくプログラミング	1
	復習	1
	13. およその形と大きさ	4
後期	ようい、スタート!	2
	すごろく	1
	わくわく SDGs	1
	6 年のまとめ	15

合計 137 予備時数 38

領域別系統表

A 数と計算 I

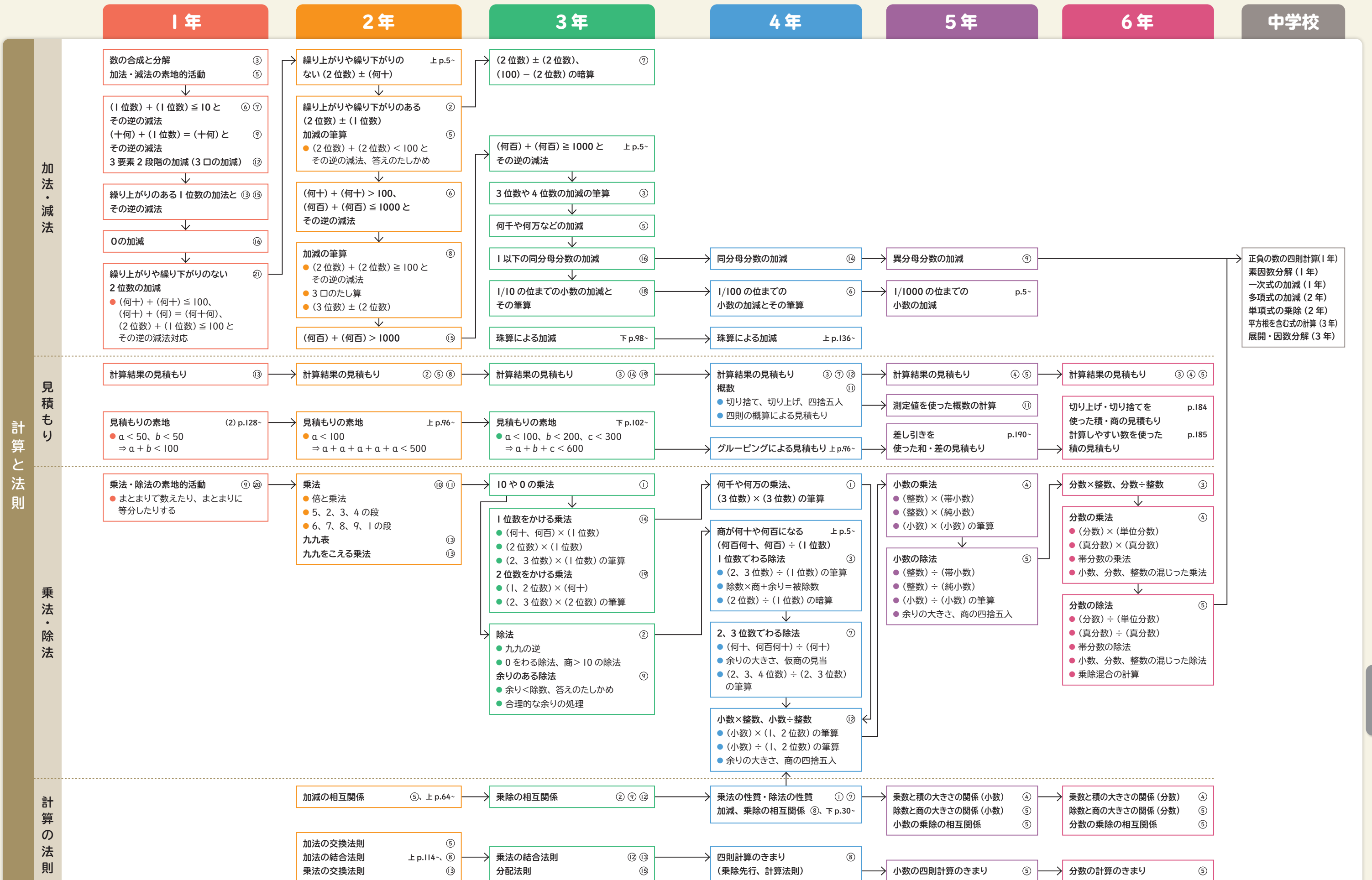
枠の中の①、②、③、…はそれぞれの学年の単元番号です。



領域別系統表

A 数と計算Ⅱ

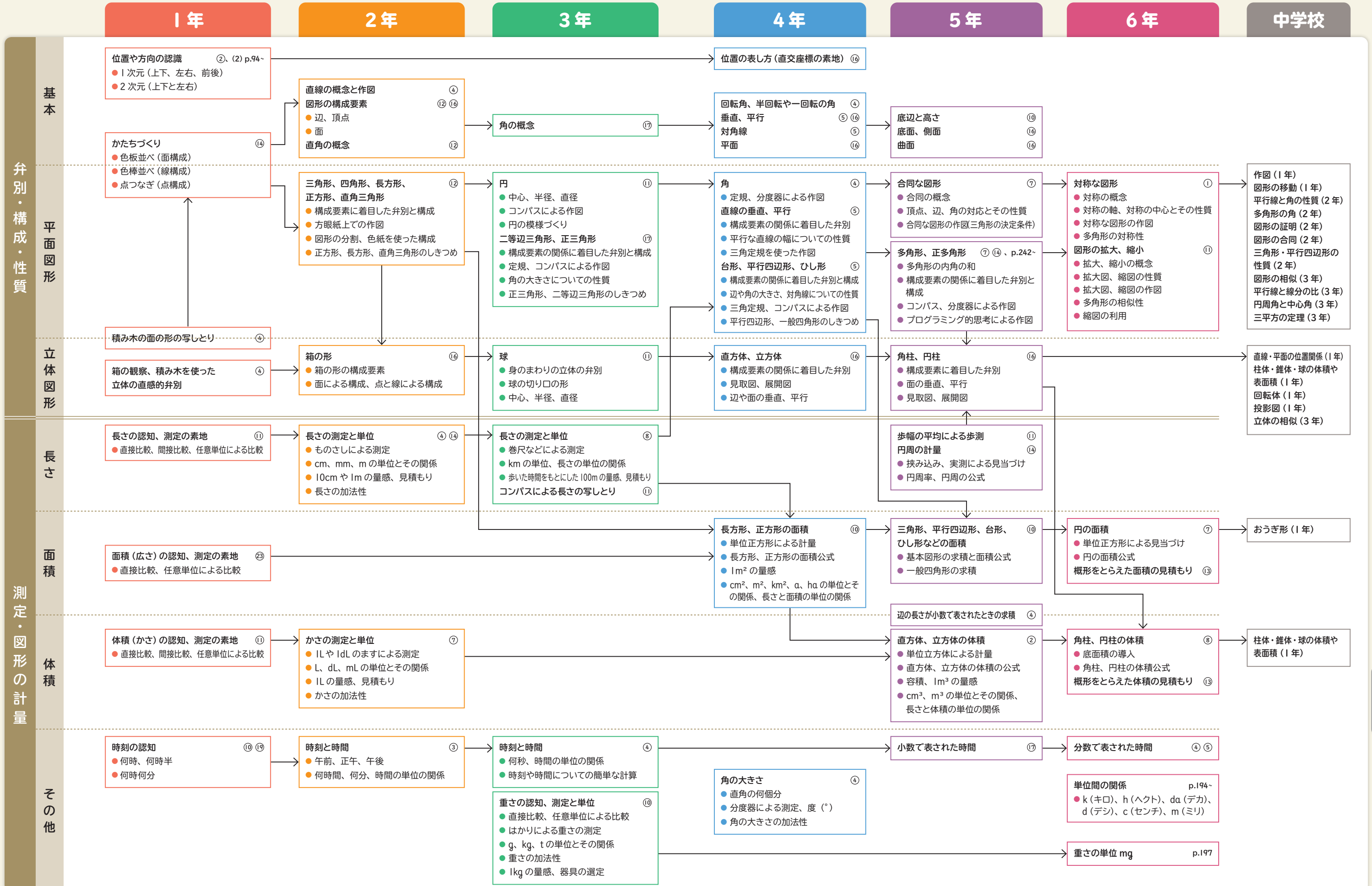
枠の中の①、②、③、…はそれぞれの学年の単元番号です。



領域別系統表

B 図形・C 測定

枠の中の①、②、③、…はそれぞれの学年の単元番号です。



1 年

2 年

3 年

4 年

5 年

6 年

中学校

数量関係

変化と関係

倍の概念、倍と乗法
割合分数の素地 ⑩ ⑪ ⑰

何倍でしょう ⑫
● 何倍かを求める除法（第1用法）
● 基準量を求める除法（第3用法）
● 比較量を求める乗法（第2用法）
● a 倍の b 倍の場面で比較量を求める問題（順思考）

簡単な割合 ⑨
● 割合の概念
● 割合の第1～3用法
● a 倍の b 倍の場面で基準量を求める問題（逆思考）
小数倍 ⑫

割合を表す小数 ④ ⑤
割合 ⑥ ⑬
● 割合の第1～3用法
● 百分率、歩合
● 割合の加減の場面で比較量を求める問題（順思考）
● 割合の加減の場面で基準量を求める問題（逆思考）
分数倍 ⑨

割合の増減に関する問題 p.5～
割合を表す分数 ④ ⑤
比 ⑩
● 比の表し方、比の値、等しい比とその関係
● 比の一方の数量を求める問題
全体を1として考える問題 p.198～

単位量あたりの大きさ ⑫
● 混み具合、人口密度
速さ ⑰
● 速さの概念
● 時速、分速、秒速とその関係

和が一定になる2数の組
（数の合成、分解） ① ③

乗数が1増えたときの
積の増え方 ⑩ ⑪ ⑬
積が等しくなる2数の組 ⑬

乗数と積の変わり方 ①
□を使った式で□にあてはめる
数と答えの変わり方 ⑳

変わり方 ⑮
● 伴って変わる2量の関係を表に表して考察する
● 伴って変わる2量の関係を式に表して考察する
● 伴って変わる2量の関係をグラフに表して考察する

簡単な比例 ③ ⑩ ⑭ ⑱
● 比例の概念
● 高さや体積、高さや面積、直径と円周、時間と道のりの関係
変わり方 ⑱

比例、反比例 ⑫
● 比例、反比例の概念
● 比例する2量の関係（商一定）、比例の式
● 反比例する2量の関係（積一定）、反比例の式
● 比例、反比例のグラフ

関数（1年）
比例・反比例（1年）
一次関数（2年）
関数 $y=ax^2$ （3年）

折れ線グラフ ②
● 折れ線グラフのよみ方、かき方
● 棒グラフと複合した折れ線グラフ
● 2つの折れ線グラフの比較
● 適切なグラフを選択すること

絵グラフ ⑧
● 個数に着目して整理すること

表とグラフ ①
● 表、●グラフの作成
● 観点に着目して整理すること

表とグラフ ⑥
● 正の字を使った表づくり
● 棒グラフのよみ方、かき方
● 簡単な二次元表の作成
● 工夫された棒グラフの考察
● 表やグラフから見いだしたことを表現すること

調べ方と整理のしかた ⑬
● 二次元の表の作成と考察
● 目的に応じてデータを集めること

割合のグラフ ⑮
● 帯グラフ、円グラフのよみ方、かき方
● 複数のグラフによる考察、統計的な問題解決の方法
● 結論について多面的に考察すること

平均 ⑪
● 平均の概念
● 測定における平均の利用

資料の調べ方 ⑨
● ドットプロットの作成と考察
● 代表値（平均値、中央値、最頻値）による考察
● 度数分布表、ヒストグラムの作成と考察
● 複数のグラフによる考察、統計的な問題解決の方法
● 結論の妥当性について考察すること

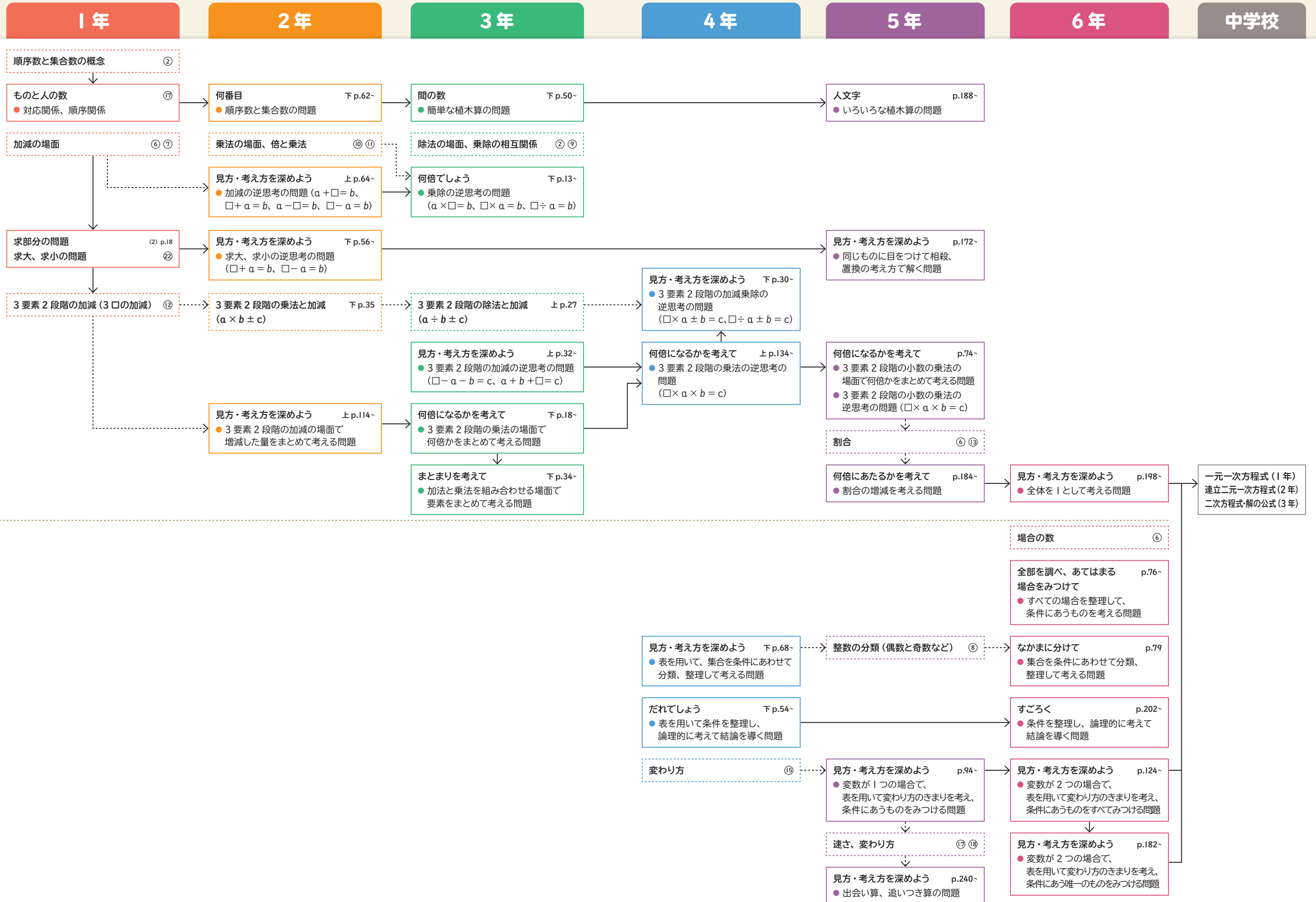
ヒストグラム（1年）
累積度数（1年）
相対度数・累積相対度数（1年）
四分位範囲・箱ひげ図（2年）
標本調査（3年）

場合の数 ⑥
● 組み合わせ、順列
● いろいろな場合を考え、条件にあうもの考える問題


多数回の試行による確率（1年）
場合の数による確率（2年）

データの活用

分布



観 点 別 特 色 一 覧 表 令和 6 年度用



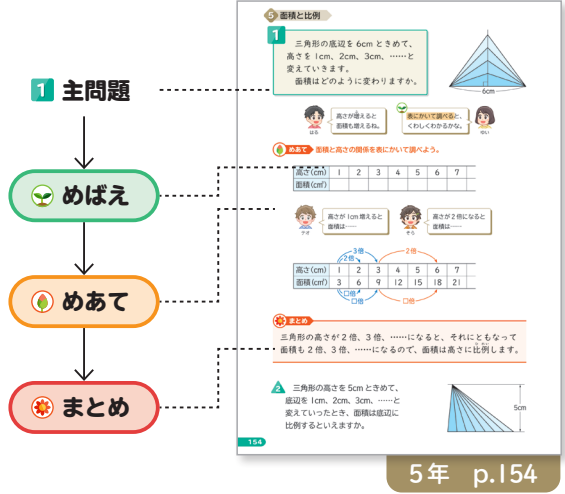
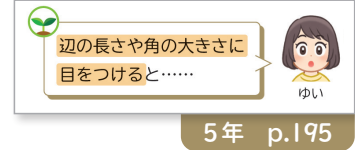
観点別特色一覧表などの
データはホームページから
ダウンロードしていただけます

https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/sho_r6/sansu

(1) 教育基本法との関連

項目	観 点	特 色	具 体 例
第1号	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮されているか。	日常生活や実社会の中からパランスよく教材を取り上げ、幅広い知識と教養が身に付くように配慮しました。また、算数の学習の進め方や、問題解決の方法を具体的に示し、真理を探究する学習態度を養えるようにしました。	<ul style="list-style-type: none">● 児童の日常生活や実社会の中から教材を取り上げるとともに、それらについて意欲的に探究できる学習活動を設定することで、幅広い知識と教養が身に付くようにしました。→ 1年① p.20-21、40-41、1年② p.44-45、112-113、2上 p.10-13、27-31、2下 p.33、3上 p.56-62、71、96-97、3下 p.22、p.84、4上 p.13、63、86、4下 p.14-15、19、52-53、58-65、5年 p.12-14、16、170-171、206-213、228-229、6年 p.10-11、82-83、120-121、190-192 など● 2年以上には「算数の学習の進め方」のページを設定し、自ら課題を見つけ、その課題について協働的に解決する学習の進め方を示すなど、真理を探究する学習態度を養えるようにしました。→ 2上 p.4-7、3上 p.4-7、4上 p.4-7、5年 p.4-7、6年 p.4-7 <div><p>2上 p.4 ~ 5</p></div>
	②個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮されているか。	児童一人一人に応じた教材を掲載するとともに、児童の多様な考え方を紹介するなど、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神が養えるようにしました。また、6年には、職業や勤労について考える場を用意しました。	<ul style="list-style-type: none">● 2年から6年については、すべての児童が学習する必修内容の「本編」と、個に応じて取り組める選択内容の「学びのサポート（じゅんぴ・もっと練習・学びをとなげよう）」の2部構成とし、一人一人の学びに対応できるようにしました。● 6年の「未来へのとびら お仕事インタビュー」では、様々な分野で活躍する方々のインタビュー記事を掲載し、職業や勤労を重んじる態度を養えるようにしました。→ 6年 p.230-240
	③正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。	教科書のキャラクター及び登場人物については、男女の偏りなく取り上げ、男女の平等に配慮しました。また、問題解決にあたっては、対話や協働的な学習場面を設けるなど、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。	<ul style="list-style-type: none">● 全学年にわたり、8人の共通キャラクターを設定し、男女の偏りなく登場させることで、男女の平等を重んずる態度が身に付くようにしました。● 学習展開においては、話し合いや伝え合う学習場面を多く設定し、他者と協働的に問題を解決していく態度が身に付くようにしました。→ 1年① p.42-43、1年② p.60-61、p.76-77、2上 p.13-15、2下 p.68-73、3上 p.10-15、4上 p.116-125、4下 p.8-9、5年 p.53-55、6年 p.106-119 など
	④生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。	動植物や自然に関連する題材や、環境に関連する題材を幅広く扱い、生命を尊ぶ精神や、環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。	<ul style="list-style-type: none">● 動植物や自然、環境に関する教材を数多く取り上げ、環境や生命を尊重する心が育つようにしました。→ 1年① p.8、1年② p.10、23、2上 p.47、3上 p.32-33、4上 p.96、5年 p.227、6年 p.82-83、184-185 など● 3年以上に「わくわく SDGs」のページを設定し、SDGs（持続可能な開発目標）や環境教育に関する課題を取り上げ、環境の保全に寄与する態度が身に付くようにしました。→ 3下 p.104-107、4下 p.106-109、5年 p.244-247、6年 p.204-207 など
	⑤伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。	日本の伝統・文化に関する題材を幅広く扱うとともに、他国の題材も積極的に採用し、郷土愛や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。	<ul style="list-style-type: none">● 鯉のぼり（1年① p.21）、七夕（2上 p.72-73）、こま回し（3下 p.2-3）、岡山城（4上 p.13）、出雲大社・日光東照宮（4下 p.19）、金閣（5年 p.96-97）、平等院鳳凰堂（6年 p.10-11）、かぶと（6年 p.11）、博多祇園山笠（6年 p.150-151）、大仙古墳（6年 p.190-191）、すごろく（6年 p.202-203）など、日本の伝統・文化に触れる教材を扱いました。● 訪日外国人の数（3上 p.71）、世界の小数の表し方（3下 p.70）、TABLE FOR TWO 活動（3下 p.107）、世界の国々の人口（4上 p.10）など、他国や国際理解に関する教材を扱いました。

(2) 学習指導要領への対応

項目	観 点	特 色	具 体 例
第1号	①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することができるように配慮されているか。	数学的活動が児童主体のものとなるように、課題発見や課題解決の過程を具体的に示し、数学的に考える資質・能力が育つようにしました。 さらに、数学的活動の過程で児童が働かせる「 数学的な見方・考え方 」を紙面上に可視化しました。	<ul style="list-style-type: none">● 児童が数学的活動を通して主体的に学習を進められるように、日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、すべての主問題（本時の問題）に「めあて」と「まとめ」を設定しました。また、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、課題発見の過程も大切にしました。→ 2上 p.74、3上 p.57-58、4上 p.85、5年 p.35、81、6年 p.71 など <div><p>5年 p.154</p></div>
	②数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けることができるように配慮されているか。	学習展開はスモールステップの段階を踏んで児童の思考に沿った構成とし、理解しやすいように配慮しました。 また、日常の事象における課題を取り上げ、問題解決を通して数理的に処理する技能が身に付くように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none">● 各時間の学習過程でポイントとなる「数学的な見方・考え方」には、児童の吹き出しにマーカーを付して価値付けられるようにしました。→ 2下 p.37、2下 p.47、3上 p.37、4上 p.85、5年 p.195、6年 p.37 など <div><p>5年 p.195</p></div>
	③日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力を養うことができるように配慮されているか。	問題設定にあたっては、日常の事象から題材を取り上げ、見通しをもち筋道を立てて考察する力が身に付くように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none">● 2年以上の各単元の冒頭では、「これから学習することのめあて」というタイトルで課題設定文を明示することで、単元を通して統合的な見方・考え方を意識することができるようにしました。→ 2上 p.73、3上 p.72、4下 p.82、5年 p.134、6年 p.154 など● 2年以上には、思考法単元「見方・考え方を深めよう」を設定し、数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に解決する力が育成できるようにしました。さらに、「学びを深めよう」で問題解決の際に有効な考え方（思考法）や図・表などのかき方（基礎操作）を系統的にとりあげることと、筋道立てて論理的に考える力を一層伸ばすことができるようにしました。→ 2上 p.64-71、114-117、2下 p.56-59、3上 p.32-35、4下 p.30-31、68-69、5年 p.94-95、172-173、240-241、6年 p.124-125、182-183、198-201 など
第2号	②個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮されているか。	児童一人一人に応じた教材を掲載するとともに、児童の多様な考え方を紹介するなど、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神が養えるようにしました。また、6年には、職業や勤労について考える場を用意しました。	<ul style="list-style-type: none">● 学習展開においては、キャラクターの会話や補助設問（ア、イ…）を適宜設定し、基礎的・基本的な概念や性質などを理解しやすいように配慮しました。→ 2上 p.13、3上 p.73、4下 p.58、5年 p.134-136、6年 p.106-117 など● 日常の事象における課題や既習内容を問題として取り上げ、数学的活動を通して数理的に処理する技能が身に付くようにしました。→ 2上 p.87-89、3上 p.18-20、4上 p.49、5年 p.16、6年 p.106 など
	④生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。	動植物や自然に関連する題材や、環境に関連する題材を幅広く扱い、生命を尊ぶ精神や、環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。	<ul style="list-style-type: none">● 日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、解決の見通しをもったりその過程を振り返ったりして、児童が主体的に学習を進められるように、すべての主問題に「めあて」と「まとめ」を設定しました。さらに、課題発見の過程を大切にするため、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示しました。→ 2上 p.74、3上 p.57-58、4上 p.87、5年 p.35、81、6年 p.71 など● 単元導入段階では「これから学習することのめあて」を設定し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしました。→ 4上 p.23 など

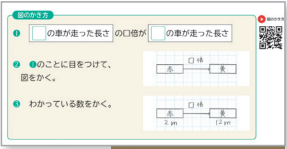
項目	観 点	特 色	具 体 例
1 算数科の目標	④基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力を養うことができるように配慮されているか。	既習の数量や図形の性質を、数学的な見方・考え方の観点からとらえ直し、筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりする力が身に付くように配慮しました。	●4年以上の巻頭の「 算数で使いたい考えの進め方 」の中で、「結びつけて考える（統合的な考察）」と「広げて考える（発展的な考察）」について具体的に紹介しました。 →4上 p.9、5年 p.9、6年 p.9 ● 単元の扉や「じゅんぴ」で既習内容を振り返り 、単元全体を通してそれらの内容をさらに統合的・発展的に深めていけるようにしました。 →2上 p.18、3上 p.36、4上 p.10、5年 p.34、6年 p.36 など ●5、6年では、児童自身が1年間の学習を見通したり、既習内容を振り返ったりしながら学習が進められるように、年間1冊の合冊で構成しました。
	⑤数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うことができるように配慮されているか。	問題解決の過程で、図や表や式に表して考えたり、考えたことを様々な表現方法で伝えあったりするなど、数学的な表現力が身に付くように配慮しました。	●自力解決の場面や、伝えあう活動の中で 図や表や式を活用する など、数学的な表現力が身に付くようにしました。 →2上 p.58-59、3下 p.15-16、4上 p.129、5年 p.176-179、6年 p.71-74 など ●2年以上に「 見方・考え方を深めよう 」の単元を設定し、問題解決の過程で、 図や表や式に表して考えたり伝えあったりする力 が付くようにしました。 →2上 p.64-67、114-117、2下 p.56-59、3上 p.32-35、4下 p.30-31、68-69、5年 p.94-95、172-173、240-241、6年 p.124-125、182-183、198-201 ●2年以上の上巻の「算数で使うことば」では、「はじめに」「次に」「だから」などの言葉を紹介し、言語活動において数学的に 論理的な表現をする力 が育成できるようにしました。 →2上 p.6、3上 p.6、4上 p.6、5年 p.6、6年 p.6
	⑥数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、算数で学んだことから新たな問題を見いだしたり、生活や学習に活用したりしようとする態度を養うことができるように配慮されているか。	数学的活動を積極的に取り入れ、児童が興味をもって楽しく学習できるようにしました。 また、算数で学習したことを生活や学習に活用する場面を多く設定しました。	● 数学的活動をベースに学習展開を構成 し、児童が興味をもって楽しく学習できるようにしました。 →1年② p.60-61、2上 p.10-13、3上 p.10-11、4下 p.58-65、5年 p.166-168、6年 p.106-117 など ●学期末や学年末には、「たすのかな ひくのかな」「どんな計算になるのかな」「買えますか？ 買えませんか？」「見積もりを使って」「算数の自由研究」「わくわく SDGs」などの 活用単元 を設定し、算数で学んだことを使って、 生活や学習に活用しようとする態度 を育成できるようにしました。 ●「 学びをいかそう🎒 」では、学習したことを算数や生活に生かして、 算数の有用性を実感 できるようにしました。 →1年 p.69、2上 p.14-15、3下 p.61、4上 p.96-99、5年 p.202、6年 p.15 など ●「 🎒算数チェック 」では、 算数と関連した身近な話題 や、学習したことから発展させて考えられる題材を盛り込み、数学的活動のよさや数学のよさに気付くことができるようにしました。 →1年② p.58、2下 p.74、3上 p.67、4上 p.59、5年 p.73、6年 p.179 など ●既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面には「 自分の力で🎒 」というマークをつけ、 既習事項を生かして新たな学習を進めていける ようにしました。 →2下 p.29、3上 p.45、4上 p.42、6年 p.22-23 など
	⑦学習を振り返ってよりよく問題解決するために、自らの学習を調整しようとしたり、粘り強い取り組みを行おうとしたりする態度を養うことができるように配慮されているか。	各単元のまとめのページでは、学習したことを振り返るとともに、それらを生活や学習に活用する活動例を紹介しました。	● 各単元末に「学びのまとめ」 を設け、「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」の 3段階の問題で構成 しました。「たしかめよう」と「ふりかえろう」で、その単元で学習したことを振り返るとともに、「やってみよう」ではそれらを生活や学習に活用する活動例を示しました。 ●巻末に「 学びをつなげよう 」のページを設け、前の学年までの 既習内容を、適宜振り返ったり学び直したりしながら学習を進める ことができるようにしました。 →2上 p.132-133、2下 p.130-131、3上 p.142-143、3下 p.126-127、4上 p.158-159、4下 p.130-131、5年 p.276-279、6年 p.266-269
2 指導計画の作成と内容の取り扱い	①主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。	すべての主問題について、「めあて」と「まとめ」を明示するとともに、登場人物の会話を通して、主体的・対話的で深い学びが実現できるように構成しました。	●日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、 すべての主問題に「めあて」と「まとめ」を設定 し、児童が目的をもって主体的に学習に取り組めるようにしました。また、 登場人物の対話場面を例示 することにより、主体的・対話的に学習を進められるようにしました。 →2上 p.74、3上 p.57-58、4上 p.85、5年 p.35、81、6年 p.71 など
	②資質・能力の3つの柱をバランスよく育成することができるように工夫されているか。	数学的活動を大切にし、見通しをもち、自力解決や話しあう活動を通して、資質・能力がバランスよく育つように配慮しました。 また、学習者の立場からは自己評価や相互評価に役立ち、指導者の立場からは3つの観点での評価に役立つページを設定しました。	●数学的活動の中で、主体的に見通しを立てたり根拠をもって考えを進めたりする児童の様子を例示することで、 知識・技能とともに思考力・判断力・表現力を育成 することができるようにしました。 →2上 p.102-103、3上 p.36-37、4上 p.84-85、5年 p.34-35、6年 p.42-47 など ●自力解決や友だちと話しあう過程で、わかったことを表現したり、よりよい方法を考えたりする活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力とともに、 学びに向かう力を育成 することができるようにしました。 →2下 p.70-71、3上 p.82-83、4上 p.58-59、5年 p.54-55、6年 p.107-108 など ●各単元末の「たしかめよう」では、3つの観点に沿った内容を掲載する、問題の設定意図と関連ページを示す、チェックボックスを設ける、QR コンテンツで解答を掲載するなどにより、 児童自身の自己評価や相互評価 などができるよう配慮しました。 →2上 p.61、3上 p.87、4下 p.78、5年 p.92-93、6年 p.104 など

項目	観 点	特 色	具 体 例
2 指導計画の作成と内容の取り扱い	③継続的な指導や学年間の円滑な接続ができるように工夫されているか。	単元冒頭に既習事項を振り返る問題を設定するとともに、巻末には既習内容を振り返るためのページを設けました。	●各単元の学習に入る前に既習内容を確認する「 じゅんぴ 」の問題を用意し、新しい学習に入る前に レディネスチェック ができるようにしました。 ●巻末の「 学びをつなげよう 」では、前の学年までの 既習内容を一覧表の形に整理 し、児童がいつでも確認できるように工夫しました。また、学習の系統をわかりやすく記載し、 教科担任制による専門的な指導の一助 となるよう配慮しました。 →2上 p.132-133、2下 p.130-131、3上 p.142-143、3下 p.126-127、4上 p.158-159、4下 p.130-131、5年 p.276-279、6年 p.266-269
	④複数領域の内容を関連付けて指導できるように工夫されているか。	ある領域で学習した内容を他の領域での学習場面で活用するなど、複数の領域間の指導の関連を図りました。	●「C測定」領域（1～3年）の学習内容については、4年以降でも活用できるように配慮しました。 ●5年の「小数のかけ算」の単元の中で、辺の長さを小数に拡張しても図形の公式が使えることを調べたり、面積の学習で比例の関係を調べたりする内容を取り扱いました。 →5年 p.44-45（公式を小数へ拡張する）、p.154（面積で比例の関係を調べる）
	⑤第1学年におけるスタートカリキュラムについて、どのように配慮されているか。	小1プロブレムに配慮し、1年の入門期では、別冊の「すたあと ぶっく」を用意し、スムーズに学習に移行できるように配慮しました。	●1年の入門期には、 スタートカリキュラム用の別冊「すたあと ぶっく」 を用意し、幼児期の体験をいかしながら、スムーズに小学校生活や学習に移行できるようにしました。また、 A4判・中綴じ製本 とすることで、書き込みやブロックを置いての操作がしやすいように工夫しました。
	⑥中学校との円滑な接続について配慮されているか。	小学校から中学校へのギャップ（中1ギャップ）をなくすために、算数の発展として数学につながる内容にも触れ、中学校への進学への期待感を高められるように配慮しました。	●算数の発展として 数学につながる内容 には、「 数学へのとびら🎒 」のマークを付して触れ、中学校への接続を大切にするとともに、教科担任制による専門的な指導の一助となるよう配慮しました。 →4上 p.83、5年 p.93、225 など ●5年と6年の教科書を年間1冊の合冊にして、1年間を見通して1冊を使用するという中学校の学習形態にも慣れていけるようにしました。 ● 「6年のまとめ 数学へのパスポート」 （6年 p.208-229）では、小学校で学んだ内容を振り返るとともに、 中学校の数学での学習事項との関連について紹介 すること、算数の学習が中学校の学習に結びついていることを実感し、進学への期待感をもてるようにしました。
2 指導計画の作成と内容の取り扱い	⑦障がいのある児童の学習活動について配慮されているか。	支援を必要とする児童だけでなく、すべての児童にとって学びやすいように、全学年を通して様々な配慮をしました。	●認識しやすい文字（ユニバーサルデザインフォント）を使用する、主問題や重要文を枠で囲んで見やすくする、1文節が2行にまたがらないようにして読みやすくする、学習の「めあて」や「まとめ」を明記するなど、 ユニバーサルデザインを採用 するとともに、すべての児童にとって学習しやすい環境づくりをめざす インクルーシブ教育にも配慮 しました。 ●判別しにくい配色を避けたり、見やすいイラストを採用したりするなど、 多様な色覚特性をもつ児童にとって学びやすいように 、全ページについて専門機関（メディア・ユニバーサル・デザイン協会）の確認を受けています。 ● 拡大教科書や、拡大・総ルビ・音声読み上げ・リフロー表示・白黒反転（配色変更）機能等のあるデジタル教科書 を用意し、多様な子どもたちの学習に対応できるようにしました。
	⑧道徳科との関連について配慮されているか。	算数科の特質に応じて、物事を多面的・多角的に考える資質・能力を育成するとともに、自他の考えのよさを認め合う協働的な学習場面を設定しました。	●説明する場面や話し合いの場面では、自分の考えを相手に伝えるだけでなく、 自分と異なる意見や立場も尊重 できるように配慮しました。 →2上 p.4-7、3上 p.4-7、4上 p.4-7、5年 p.4-7、6年 p.4-7 など ●「町内の掃除」（2上 p.47）、「公園の空き缶集め」（4上 p.96）「ペットボトルのキャップ集め」（5年 p.161）などのボランティア活動を取り上げ、 公共に寄与する態度が養 えるようにしました。
	⑨カリキュラムマネジメントの観点から、他教科および総合的な学習の時間との関連や柔軟な指導計画の作成について配慮されているか。	教材の選定にあたっては、算数科だけではなく、他教科との関連にも十分に配慮しました。 また、3学期制はもとより、2学期制など柔軟な指導計画へも対応できるように、配当時数および単元の配列についても配慮しました。	●以下の例のように、 他教科との関連に十分に配慮 しました。 【国語】「かぞえた」（1年② p.140-141）、「算数で使うことば」（2～6年上巻 p.6） 【社会】「町探検の計画」（3上 p.50-52）、「都道府県の人口」（3上 p.59）、「世界の国々の人口」（4上 p.10-12）、「県の予算、国の予算」（4上 p.13） 【理科】「折れ線グラフ」（4上 p.23-35）、「台風」（5年 p.230）、「日本の森林」（6年 p.82-83）、「日本の降水量」（6年 p.204-206） 【生活】1年「すたあと ぶっく」 【音楽】「音楽の発表会」（5年 p.174-176） 【図工】「未来へのとびら」（6年 p.232-233） 【家庭】「オーロラソースづくり」（6年 p.128-131） 【体育】「好きなスポーツ」（4下 p.104）、「大縄とび大会」（6年 p.106-117）、「マラソン大会」（6年 p.168-169）「未来へのとびら」（6年 p.236-237） 【外国語】Reuse、Recycle、Refuse（4下 p.109）、Saving Lives（6年 p.207） 【総合的な学習の時間】「食料」（3下 p.104-107）、「ごみ、リサイクル」（4下 p.106-109）、「エネルギー」（5年 p.244-247）、「水害」（6年 p.204-207） ●3学期制、2学期制いずれの場合にも、 学期の切れ目が単元途中にならない ような単元配列としました。 ● 余裕をもたせて各学期の時間配当をする など、カリキュラムの変更にも柔軟に対応できるようにしました。 →1年127時間（予備時数9時間）、2年156時間（予備時数19時間）、3年158時間（予備時数17時間）、4年160時間（予備時数15時間）5年161時間（予備時数14時間）、6年137時間（予備時数38時間）
2 指導計画の作成と内容の取り扱い	⑩複式の指導にも対応できるように配慮されているか。	異学年の関連する領域の単元を、できる限り同じ時期に配置することにより、複式の指導にも対応できるように配慮しました。	●発達段階に応じて、 関連する領域の単元をできる限り同じ時期に位置付ける ことで、複式の年間指導計画が作りやすいように配慮しました。（詳細は、新興出版社啓林館のHPに掲載する「複式年間指導計画」をご参照ください。）

項目	観 点	特 色	具 体 例
2 指導計画の作成と 内容の取り扱い	①キャリア教育の視点から、プログラミングやSTEAM教育に配慮されているか。	多様な職業に触れる場面を取り扱うなど、仕事や生き方について考えるページを設定しました。また、プログラミングを通して、論理的思考力を身に付けられるように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●6年の「未来へのとびら お仕事インタビュー」(6年 p.230-240) では、STEAM教育やキャリア教育を意識し、様々な分野で活躍している4名の方々(アーティスト、科学者、研究者、エンジニア)のインタビュー記事を掲載し、仕事への思いや算数がどのように役立っているかななどについて紹介し、将来の仕事や生き方について考えることができるようにしました。 ●1年から6年までの全学年に「わくわくプログラミング」の単元を設け、楽しみながらプログラミングを体験し、将来に役立つプログラミング的思考、論理的思考力が身に付くように配慮しました。 →1年② p.94-95、2下 p.110-111、3下 p.52-53、4下 p.104-105、5年 p.242-243、6年 p.186-187

(3) 教科書の構成上の配慮と工夫

項目	観 点	特 色	具 体 例
1 内容の程度	①児童の発達段階に照らして、学習内容の程度や展開は適切か。	児童の発達段階に照らして、学習内容や展開は系統的に段階を踏んで構成しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元においては、児童にとって身近な題材や既習の内容をベースに導入し、児童の思考の流れに沿った展開としました。また、展開にあたっては、スモールステップの段階を踏んで構成しました。 ●新しい演算を学習した後は、適切な演算を決定し、根拠を説明する活用単元「どんな計算になるのかな」(1年は「たすのかな ひくのかな」)を設定し、演算の意味理解が深まるようにしました。 →1年② p.116-117、2下 p.60-61、3上 p.90-91、4下 p.52-53、5年 p.96-97、6年 p.82-83
	②練習問題の内容や程度は適切か。	単元の学習内容を確実に理解するため、練習問題の難易度も単元の内容と同程度に設定しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元中の練習問題、学期中間と学期末の「復習」、単元末の「学びのまとめ」とも、単元の内容と同程度の難易度で設定し、学習内容を確実に習熟できるように配慮しました。 ●各学期の中間・期末にあたる時期に設定した「復習」では、その学年や前の学年の内容だけでなく、習熟が必要な計算問題などはさらに前の学年に遡って取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着するように配慮しました。また、全国学力・学習状況調査等で正答率の低かった問題には①マークをつけて、意識して取り組めるようにしました。 →3下 p.82-83、5年 p.216-217 など
	③補充的・発展的な学習や探究的な学習の取り扱いについて、どのように配慮されているか。	単元で学習したことを活用して発展的に取り組める教材や、身近な課題に対して数学的に探究できる教材を取り扱いました。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元の導入では、既習内容をもとに発展的に探究する題材を多く扱いました。 ●単元末の「学びのまとめ」の中の「やってみよう」では、これまでに学習したことを活用して発展的に取り組める課題例を扱いました。 ●学習指導要領の範囲外などの発展的な内容については「発展」のマークを付し、児童の興味・関心に応じて学習が進められるようにしました。 →2下 p.75、3下 p.45、5年 p.113 など
2 組織・配列	①系統性や児童の発達段階等に照らして、各単元が適切に組織・配列されているか。	教科書で取り上げる時期については、領域全体のバランスや児童の発達段階、習熟に要する時間、季節などを考慮して組織・配列しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●特に低学年では、児童の興味の持続性を考慮し、同一領域の内容が何単元も連続しないように配慮しました。 →2下「かけ算(1)」→「かけ算(2)」→「三角形と四角形」→「かけ算の きまり」など ●類似内容を複数の単元に分け、習熟の時間が確保できるように配慮しました。 →5年「割合(1)」「(1学期)「割合(2)」「(2学期)「割合のグラフ」(3学期) など ●学年の始めの時期には、楽しく学習できる内容や準備に負担が少ない題材を取り上げました。また、屋外での活動や水を使う単元は暖かい時期に設定しました。 →2年「ひょうと グラフ」(4月)、「かさ」(7月) など
3 分量 時間	①各学年の内容の分量は、年間の指導時間数に照らして適切に配分されているか。	児童の知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の向上を確実に図れるように、時間数に応じて内容を適切に配分しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年の学習内容を吟味し、理解や定着に必要なページ数と十分な時間数が確保できるように構成しました。 ●領域や学習内容によって分量に大きな差が出ないよう、ページ数と時間数を計画的に配分しました。 ●2年以上の巻末の「もっと練習」には、各単元の補充問題をまとめて掲載し、自学自習や家庭学習も含め、必要に応じて柔軟に扱えるようにしました。 ●余裕をもたせて各学期の時間配当をして、各学校の実態に応じて柔軟な指導ができるよう配慮しました。 →1年 127時間(予備時数9時間)、2年 156時間(予備時数19時間)、3年 158時間(予備時数17時間)、4年 160時間(予備時数15時間)5年 161時間(予備時数14時間)、6年 137時間(予備時数38時間)
	②各単元の内容は、1時間毎の授業に照らして適切な分量で構成されているか。	実際の授業の流れを想定し、1時間の分量を適切に配分しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●1時間の授業の流れを想定し、原則1～2ページに収まる分量で構成することで、無理のない学習ができるよう配慮しました。
	③練習問題や復習問題の分量は適切か。	練習問題、復習問題は、基礎的・基本的な内容を習熟させるのに十分な分量に精選し、計画的に配置しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●練習問題、復習問題を計画的に設定し、各学年20～30時間程度の配当時間をあて、学習内容の理解の定着と知識の持続を図れるようにしました。 ●各巻末には「じゅんぴ」や「もっと練習」を設け、適宜柔軟に時間を使って補えるようにしました。

項目	観 点	特 色	具 体 例
4 教材・素材における 創意工夫	①割合や統計の学習について、特別な工夫や配慮がされているか。	割合や統計など児童のつまずきの多い内容については、学年をまたいでスパイラルに学習できるように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●割合は「aのb倍がc」という数量の倍関係をベースにした系統的な構成とし、2年で初めて「倍とかけ算」を学習した後、3・4年で整数倍、4・5年で小数倍、6年で分数倍のように、学年を超えてスパイラルに学習できるように配慮しました。 ●数量の倍関係を把握するために、一貫して関係図を提示して丁寧に説明し、児童が倍概念を理解しやすいようにしました。  <p>3下 p.15</p>
	②環境問題、食育、防災、SDGsなど、今日的な社会課題が取り上げられているか。	今日的な社会課題に寄与する態度を養うため、様々な教材を取り上げました。	<ul style="list-style-type: none"> ●環境の保全の観点から、空き缶集め(4上 p.96)、リサイクル(4下 p.106-109)、気候変動(6年 p.204-207) などを取り上げました。 ●健康・食育・生命尊重の観点から、朝食(3上 p.81)、食品ロス(3下 p.104-107)、給食(5年 p.208-209)、夕食の献立(6年 p.80)、茶碗一杯分の米(6年 p.184)、心臓の鼓動の回数(6年 p.185) などを取り上げました。 ●防災の観点から、防災マップ(5年 p.165)、水害(6年 p.204-207) などを取り上げました。 ●3年以上に「わくわく SDGs」のページを設け、3年「食品ロス」、4年「ごみ、リサイクル」、5年「エネルギー」、6年「水害」などのテーマを扱い、環境の保全や、健康、防災などに寄与する態度を養えるようにしました。 →3下 p.104-107、4下 p.106-109、5年 p.244-247、6年 p.204-207
	③人権、福祉、ジェンダーなどについて配慮されているか。	人権などの専門家の監修のもと、人権、福祉、ジェンダーなどについて十分に配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●登場するキャラクターを性別で区別しない、男女の役割や言葉遣い、服装の色・種類などを固定的なイメージで表現しないように配慮しました。 ●イラストで他国ルーツの子どもや、車いす・眼鏡を使用している子どもなどを掲載し、多様性を認める態度が養えるように配慮しました。
	④児童の興味・関心を喚起し、学習意欲を起こさせるように工夫されているか。	日常生活や身近な題材から導入し、数学的活動を通して探究的に学ぶことで、算数の有用性を実感できるようにしました。	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の身近な教材や既習の内容をベースに導入するとともに、数学的活動を通して問題解決する学習展開とすることで、児童が興味・関心をもって算数の学習に取り組めるようにしました。 →2上 p.74、3上 p.57-58、4上 p.85、5年 p.35、81、6年 p.71 など
			<ul style="list-style-type: none"> ●「たすのかな ひくのかな」「どんな計算になるのかな」「買えますか? 買えませんか?」「見積もりを使って」「算数の自由研究」「わくわくプログラミング」「わくわくSDGs」などの活用単元を設定することで、日常生活と算数の関わりを実感できるようにしました。

項目	観 点	特 色	具 体 例
5 表現・表記	①文章表現は、読みやすく意味が捉えやすいものになっているか。	意味が捉えにくい表現や、いろいろな意味に捉えられるあいまいな表現などは避け、正確で丁寧な文章表現に配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●文章表現については、国語教育・言語力の専門家の監修のもと、読みやすく意味が捉えやすいように配慮しました。 ●文章の改行位置を意味の区切りで行い、読みやすさに配慮しました。 ●教科書で取り上げた定義は、児童の発達段階を考慮して、数学的な厳密性よりも直観的に捉えやすく、わかりやすいものを採用しました。 → 3 下 p.5 「円」、4 上 p.130 「割合」 など
	②漢字や仮名遣い、アルファベットなどの扱いは、国語科や外国語科との関連が配慮されているか。	当該学年の配当漢字までを扱い、見開きの初出にふりがなを付けました。	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字は原則として当該学年までの配当漢字を扱い、見開きの初出にはふりがなを付けました。 ●算数用語には配当学年に関わらず、必要に応じてふりがなを付けました。なお、カタカナは 1 年の 3 学期以降で使用しました。 ●アルファベットは 4 年以降で使用しましたが、2、3 年でも指導する量の単位の書き方は アルファベット指導との関連を考慮して丁寧に記述しました。
6 図絵・写真・資料	①児童の理解にふさわしい挿絵や図、写真などが効果的に使用されているか。	現実の事象を提示する場面や、児童に活動を促す場面では写真や挿絵を掲載し、児童が実感をもって理解できるように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元の導入時など効果的な場面では、生活に密着した題材をダイナミックな写真や挿絵で提示しました。 → 1 年① p.20-21、40-41、1 年② p.46-47、2 上 p.10-11、47、2 下 p.2-4、3 上 p.50、3 下 p.56、4 上 p.63、4 下 p.58、5 年 p.226、6 年 p.10-11 など <ul style="list-style-type: none"> ●児童が興味をもち楽しい活動がイメージできるように、また、問題の理解や解決に役立つヒントになるように、学年の発達段階を考慮したわかりやすい挿絵を採用しました。 → 1 年① p.18-19、1 年② p.30-32、2 上 p.87、2 下 p.24、3 上 p.10、3 下 p.92、4 上 p.10、5 年 p.166、6 年 p.76 など <ul style="list-style-type: none"> ●作業や調査などの活動の場面では、児童が実際に活動している臨場感のある写真（必要に応じて QR コンテンツとして動画等も用意）を効果的に使用し、活動がイメージしやすいように配慮しました。 → 1 年① p.42-43、1 年② p.52-53、2 下 p.77-80、3 上 p.97、3 下 p.2-6、4 上 p.49-51、5 年 p.162、6 年 p.25 など
	②児童の思考の拠り所となる基本操作や図などについては、発達段階を踏まえて系統的に扱われているか。	基本操作や問題解決に有効に働く図については、学年を追って系統的に扱いました。	<ul style="list-style-type: none"> ●数や計算の意味理解のために、20 までの数については数図ブロックを基本とし、具体物・半具体物・数字の関係を捉えながら数観念が身に付くように配慮しました。一方、記数法的な見方が必要となる大きな数については、計算棒で束をつくる・くずすという操作と繰り上がり・繰り下がりとを対応させながら、数や計算の理解が深まるように配慮しました。 → 1 年① p.18、1 年② p.32、61、77、2 上 p.19-25、48-56 など <ul style="list-style-type: none"> ●数の相対的な大きさに着目させたい場面では、児童が個数に着目した相対的な見方ができるように、貨幣や紙幣を取り上げました。 → 1 年② p.107、2 上 p.77、2 下 p.89、3 上 p.29、3 下 p.23、4 上 p.45、113 など <ul style="list-style-type: none"> ●問題解決の際に有効に働くテープ図・線分図・関係図・表などのかき方については単発的に扱うのではなく、本単元の中や思考法単元「見方・考え方を深めよう」の中で段階を追って系統的に扱いました。 → 2 上 p.64-69、114-117、2 下 p.56-59、3 上 p.32-35、3 下 p.14-19、94-97、4 下 p.68-69、83-88、5 年 p.94-95、172-173、6 年 p.124 - 125、182-183 など <ul style="list-style-type: none"> ●演算決定の際などに用いる数直線を系統的に扱い、そのかき方を本文や巻末に詳しく整理しました。 → 5 年 p.274-275、6 年 p.264-267 など <ul style="list-style-type: none"> ●考えやすい図や表は児童によって異なるため、テープ図、線分図、関係図、数直線図、表などを複数提示し、特定のものだけに偏らないように配慮しました。
	③引用されている資料は、正確で新しいものが使われているか。	統計資料は可能な限り最新のものを使用しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●教材として取り上げている統計資料については、児童に馴染みやすく算数科の指導目標に合ったものとし、正確で新しいものを使用しました。 → 4 上 p.34、86、4 下 p.106-108、5 年 p.206-211、p.244-246、6 年 p.120-121、p.204-206 など
7 ユニバーサルデザイン	①字体は、視認性が高く読みやすいものになっているか。	文字の大きさや書体、行間などは児童の発達段階を考慮して読みやすいように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●文字は国語科との関連を考慮して教科書体を基本とし、ボディが広くて読みやすい肉厚の字体（ユニバーサルデザインフォント）を使用しました。また、算数用語など強調する太字体についても、点画の正しい「学参フォント」を採用しました。 ●文字の大きさについては、児童の発達段階を考慮して、低学年では大きく、中高学年では徐々に小さくしました。また、文字間や行間も読みやすく設定しました。
	②様々な色覚特性をもった児童に対する配慮はされているか。	すべての児童にとって、見やすい色使いに配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●色使いについては、カラーユニバーサルデザイン（CUD）の観点から、見分けることが困難な配色は避け、色だけで判断するような情報は扱わないなどの配慮をしました。特に、色覚特性については全ページについて専門機関（メディア・ユニバーサル・デザイン協会）の確認を受けています。
	③紙面構成は、読みやすいように配慮されているか。	一目で紙面構成が理解できるよう、シンプルでメリハリのある紙面構成を工夫しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●紙面を文字でぎっしり埋めず、写真や挿絵などを有効に活用したり、かき込みスペースを設定して余白を確保したりするなど、視覚的に内容を捉えやすくなるように配慮しました。 → 1 年① p.12-13、1 年② p.4-5、14-15、2 上 p.13、3 上 p.19 など

項目	観 点	特 色	具 体 例
8 印刷・造本	①文字、挿絵、写真などは、鮮明に印刷されているか。	文字、挿絵、写真などを、見やすく鮮明に印刷しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●文字、挿絵、写真などは、4 色のカラーインクを使って見やすく鮮明に印刷しました。 ●挿絵や写真の上に文字が重なる場合は、文字の背景やまわりを白くするなどの処理を施して読みやすいように配慮しました。 → 1 年① p.20、2 上 p.4、3 上 p.4、4 上 p.4、5 年 p.4、6 年 p.4 など
	②用紙・製本は、堅牢で使いやすいものになっているか。	丈夫で軽い用紙を使用し、堅牢な製本にしました。	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な児童の取り扱いや長期間の使用に耐え得るように、開きやすく、強度が保てる「あじろ綴じ」を採用し、きわめて堅牢に製本しました。 ●表紙・裏表紙には汚れにくく丈夫な加工を施しました。また、裏表紙の氏名欄には、鉛筆でも書き込みがしやすいように加工しました。 ●1 年の「すたあと ぶつく」では、書き込んだり消したりしやすいように、特別な用紙を使用するとともに、ブロックの操作がしやすいように中綴じの製本形式を採用しました。 ●巻末の付録には、丈夫な厚紙や書き込みのしやすい紙などを使用し、児童が活動しやすいように工夫しました。 → 2 上 p.135-136、2 下 p.133-135、3 上 p.145-147、3 下 p.129、4 上 p.161、5 年 p.281、6 年 p.271 など
	③環境やアレルギーに対して配慮されているか。	用紙・印刷において、環境やアレルギーなどに配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●環境に優しい再生紙や化学物質をおさえた植物油インキを使用するなど、環境やアレルギーに配慮しました。
	④教科書の重さは、児童の身体的負担に対して配慮されているか。	用紙・印刷において、軽量化に配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●軽量で裏写りせず鮮明に印刷できる用紙を採用するなど、教科書の軽量化に配慮しました。
9 日本型学校教育の課題への取り組み	①感染症や災害の発生等乗り越えて、学びを保障することができるように配慮されているか。	QR コードから「解説動画」を視聴できるようにし、休校時などにおいても学びを保障できるようにしました。	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての主問題（本時の問題）について、QR コードから「解説動画（スマートレクチャー）」を視聴できるようにし、災害時などの休校時においても学習が続けられるように配慮しました。 ●教科書で学習する際の感染対策についての留意点を巻頭に掲載しました。 ●写真撮影等の教科書制作段階における感染症対策には、万全を期しました。（感染症対策については、教科書巻頭にも記載しました。）
	②個別最適な学びの実現に向け、個の特性や興味・関心に応じた指導・学習ができるように配慮されているか。	児童の興味・関心や進度などに応じて柔軟に扱える教材を掲載したり、QR コードから「解説動画」を視聴できるようにするなど、個別最適な学習にも対応できるようにしました。	<ul style="list-style-type: none"> ●巻末に「じゅんぴ」を設定し、単元に入る前に既習内容をおさえておくことができるようにしました。 ●巻末の「もっと練習」に各単元の補充問題をまとめて掲載することで、必要に応じて柔軟に扱えるようにしました。さらに、基本問題と挑戦問題の 2 種類を用意することで、個別最適な学びへの対応もできるようにしました。 ●紙面に QR コードを掲載し、タブレット等の ICT 機器を使って学習できるコンテンツを充実させました。特に、ヒント・答えが確認できる練習問題のコンテンツや、「よくあるまちがい」を確認するコンテンツ、解説動画のコンテンツなどを用意し、児童の習熟度に応じて個別最適な学びが実現できるようにしました。 → 1 年② p.11（たしざんの かあと）、2 上 p.47（じゅんぴ）、2 下 p.34（練習）、3 上 p.87（たしかめよう）、3 下 p.29（よくあるまちがい）、4 上 p.43（よくあるまちがい）、4 下 p.80（復習）、5 年 p.248（もうすぐ 6 年生）、6 年 p.43（動画） <ul style="list-style-type: none"> ●すべての主問題（本時の問題）について、QR コードから「解説動画（スマートレクチャー）」のコンテンツを視聴できるようにし、特別支援や個別最適化、さらには家庭学習にも対応できるようにしました。
	③協働的な学びを通して、児童が持続可能な社会の創り手となることができるように配慮されているか。	対話や協働的な学習場面を多く設けることで、他者と協力しながら問題解決を図る態度が育つように配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決にあたっては、友だちとの話し合いや協働的な学習場面を取り入れ、他者と協力したり自分の役割を積極的に果たしたりする態度を養えるようにしました。 ●3 年以上に「わくわく SDGs」のページを設け、3 年「食品ロス」、4 年「ごみ、リサイクル」、5 年「エネルギー」、6 年「水害」などのテーマを扱うことで、持続可能な社会の創り手になることができました。 → 3 下 p.104-107、4 下 p.106-109、5 年 p.244-247、6 年 p.204-207
	④具体操作や ICT 活用を効果的に組み合わせることで、教師・児童の力を最大限に引き出せるように工夫されているか。	QR コードからアクセスできるデジタルコンテンツを多数用意することで、教師の指導の幅を広げるとともに、児童にとっては 1 人 1 台端末を有効活用した深い学びを実現できるようにしました。	<ul style="list-style-type: none"> ●巻末に付録を付けることで、具体操作を通して実感を伴った理解ができるように工夫しました。 → 2 上 p.135-136、2 下 p.133-135、3 上 p.145-147、3 下 p.129、4 上 p.161、5 年 p.281、6 年 p.271 など <ul style="list-style-type: none"> ●QR コードからリンクしたデジタルコンテンツを使用することで、多様で効果的な指導を行うことができるようにするとともに、児童にとっては、個々の興味関心に応じて、主体的に学びを深めることができるようにしました。 → 1 年② p.4、14、2 上 p.13、15、2 下 p.52、98、100、3 上 p.77、3 下 p.56、4 上 p.72、4 下 p.93、5 年 p.29、136、186、209、6 年 p.141 など
	⑤学校における働き方改革や指導経験の浅い教師について配慮しているか。	学習展開における「めあて」と「まとめ」の明示、数学的な見方・考え方の可視化など、教師を支援するよう配慮しました。	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての主問題について、「めあて」と「まとめ」を明示したり、数学的な見方・考え方を明示したりするなど、学習の流れとポイントを明確にすることで、経験の浅い教師にとっても指導しやすいように配慮しました。 ●すべての主問題について、QR コードから「解説動画（スマートレクチャー）」を視聴できるようにし、教師が授業の準備として、教材や学習の流れを確認することができるようにしました。 ●教師用指導書、デジタル教科書等を充実させることで、効率的な指導を支援し、学校における働き方改革の推進にも配慮しました。
	⑥個人情報の取り扱いについて配慮しているか。	デジタル教科書等で取り扱う個人情報について、取り扱いには十分に配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> ●当社が取り扱う全ての個人情報（デジタル教科書等で取り扱う個人情報）について、社会的使命を十分に認識し、本人の権利の保護、個人情報に関する法規制等を遵守します。



「わくわく算数」は子どもと先生をトータルにサポートします

丁寧な説明と豊富な資料で先生方のご指導をサポート

⇒ p.70-71

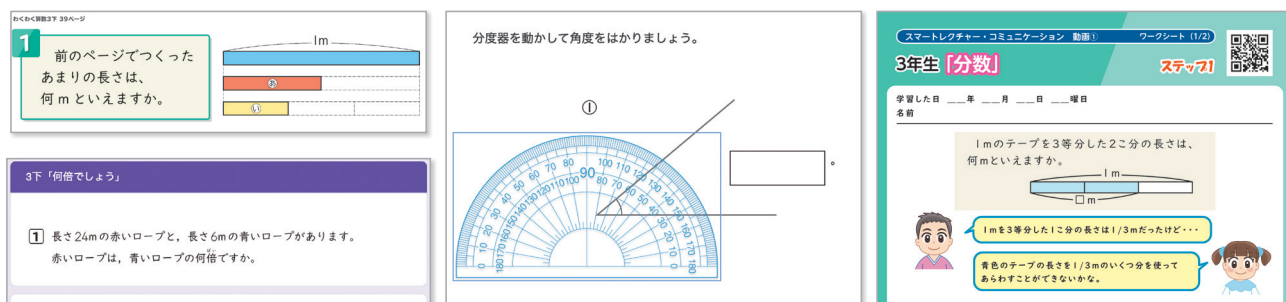
●教師用指導書

朱注編に加え、詳細な板書例を示した板書ブックもご用意。
指導経験の浅い先生も手厚くサポートします。



●Keirinkan Portal

指導書付属 DVD 収録の指導用データ等を、ダウンロードできるサービスです。
指導書をご購入いただいた学校の先生方がご利用いただけます。



●エデュフル

授業のポイントを、指導時期に合わせて配信する無料サービスです。
指導力向上のための情報をタイムリーに確認できます。



ICT をより活用して 教えやすく学びやすい授業に

⇒ p.72-75

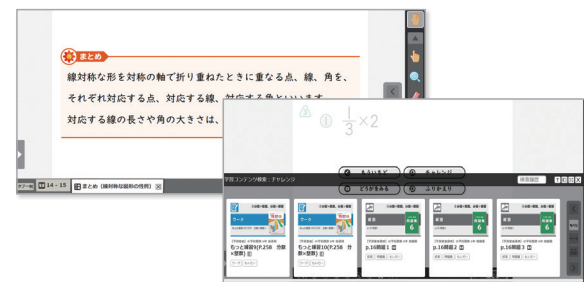
●学習者用デジタル教科書（教材）

教科書とコンテンツがシームレスに繋がります。
教材パックの購入で、さらに個別最適な支援も。



●指導者用デジタル教科書

学習者用デジタル教科書の機能に加え、
先生をサポートする機能をさらに充実させました。



●デジタル教科書実践事例集

実践事例や活用術をホームページで
無料で公開しています。



個に合わせた教材で 特別支援に配慮

⇒ p.76

●マルチリンガル教科書

教科書を多言語表示できるアプリで
他国ルーツの子どもも学びやすく。



外国籍・
帰国子女の
児童・生徒に

●拡大教科書

弱視児童に配慮し、教科書の文字や
イラストを大きく構成し直しました。

6+7 の **大きく!** 6+7 の

教科書準拠の副教材で 学力向上を図る

⇒ p.77

●わくわく算数問題集

解説動画とも連携し、
基礎・基本の定着をサポートします。

●わくわく算数ノート

ノート指導に配慮し、
自ら考える子どもを育成します。

●わくわく算数評価テスト

基礎・基本版と活用力版で
様々な算数の力を測ります。

指導書のご紹介

第1部 総説

総説



算数教育の総論を
まとめた解説書

第2部 詳説

朱註編



教科書紙面に沿った
展開例・ポイント

板書ブック



毎時の板書と展開例を
まとめて確認

研究資料編



教材研究用の
豊富な参考資料

コピー教材集



コピーして使える
ワークシートやテスト

DVD



啓林館ポータルサイトを開設します。指導書特典として、
以下の教材データをご利用いただけます。

<https://primary.keirinkan-portal.com>

ユーザー名：keirin-sansu
パスワード：trial-sansu



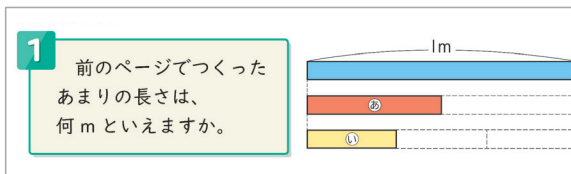
● 図版の画像データ

教科書に掲載している図の画像データをご用意します。



● 問題の画像データ

教科書に掲載している問題（主たる問題）の
画像データをご用意します。



● 教科書の解答データ

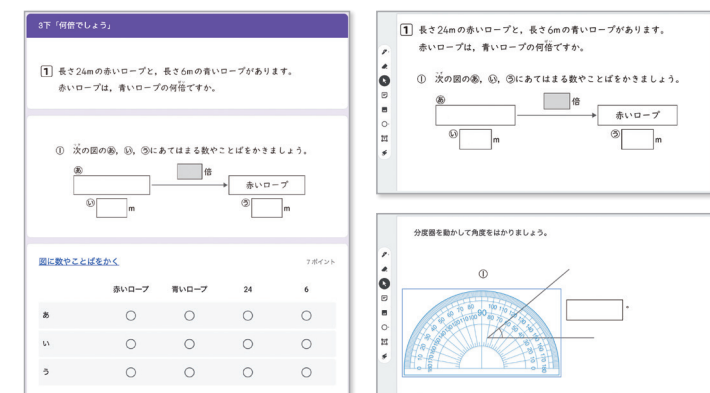
教科書に掲載している問題（練習問題）の答えのデータを
ご用意します。

● プリント教材

ワークシートやテストなど、
コピー教材集に収録している全紙面のデータをご用意します。

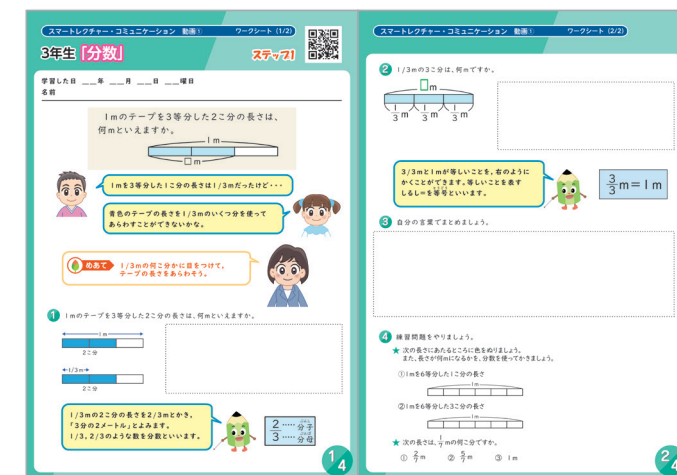
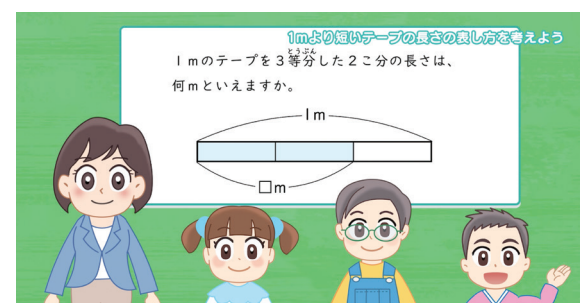
● Google workspace で ご利用可能な教材データ

コピー教材集に収録しているテスト問題を Google フォームや
Jamboard を使ってアレンジしたものをご用意します。
CBT の形式でコピー教材集のテストに取り組んでいただけます。



● スマート・レクチャー・コミュニケーション

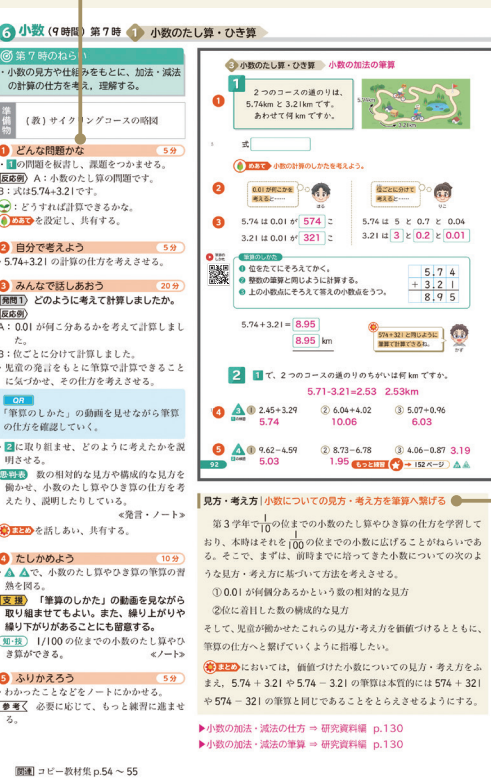
困難単元を中心にワークシート付の学習用アニメーションをご用意
します。登場するキャラクターのやり取りからは、協働的な学
びを通じて深めあうときのポイントを感じていただけます。



朱註編

展開例

問題解決型学習に沿った展開例



板書ブック

ICT

電子黒板などの使用例を提案



教科書紙面

紙面とあわせて
板書例・展開例を
掲載

QR

QR コンテンツの
使用例を記載

見方・考え方

本時で学ぶ数学的な
見方・考え方の解説

板書例・展開例

詳細な板書例と展開例の対応
で授業の組み立て方がわかる

デジタル教科書、教材のご紹介

デジタル教科書の特徴



より軽く、より快適に動作する【超教科書クラウド + 超教科書ビューア】

ICT 環境や I 人 I 台端末の整備により、デジタル教科書を快適に利用できる環境が整ってきました。啓林館では、機能を充実させながらも簡易な操作性を重視しました。紙面やコンテンツをさらに改良し、より軽く快適に利用できるようにしています。



基本機能



暗記したい部分を隠す線をかきこみます。線を押すと半透明／不透明になります。



かきこみ情報と拡大率を保存したり、超しおりを付けたページへ移動したりします。



ペン



選択 (+パニング)



ズーム



図形描画



マイリンク



テキストボックス



バイナダー

特別支援機能

紙媒体の教科書のみを使用して学習することが困難な児童のための学習支援機能を充実させました。アクセシビリティを重視し、一人ひとりのニーズに応えます。学習者用デジタル教科書、および、指導者用デジタル教科書（教材）で各機能がご利用いただけます。



リフロー



白黒反転



総ルビ



読み上げ

ナビメニュー

文部科学省仕様に準拠した、各社共通の操作用メニューを実装しています。



ナビメニュー最小化



アクセシビリティメニュー表示 (ルビ、白黒反転、リフロー)



ルビ



白黒反転



リフロー

QRコンテンツ

アイコンをタップやクリックするだけで、コンテンツを立ち上げることができます。QR シミュレーションは状態保存ができ、QR 動画や QR アニメーションは再生画面にかきこみができます。

学習者用デジタル教材

基本機能をご利用いただけます。その他、動画、スライドショーやアニメーション、シミュレーション、フラッシュカード、ワーク等、基礎基本の習得に役立つたくさんのコンテンツや機能をご用意しています。



動画

紙面では表現できない動きのあるものを動画で確認することができます。



フラッシュカード

繰り返し練習でき、基礎・基本の定着をはかります。



シミュレーション

実際に動かして確かめたり観察したりすることができます。



スライドショー、アニメーション

静止画ではイメージしにくいものを、イラストを用いてイメージしながら確認することができます。



ワーク

教科書にある練習問題を表示します。理解の程度に応じて、ポイントやヒントを確認しながら学習が進められます。指導者用デジタル教科書（教材）との連携により、解答を表示することも可能です。

学習指導要領コードの利活用機能

学習指導要領コードを独自に細かく設定した【学習要素】を用いた機能を実装しています。紙の教科書の学習内容や用語、練習問題に【学習要素】を対応させています。
・同じような学習内容の検索や練習問題の検索ができます。
・系統的なふりかえりによる、既習内容の復習や確認ができます。

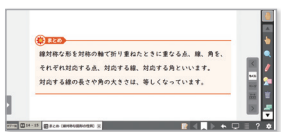


指導者用デジタル教科書（教材）

学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教材に含まれているコンテンツと機能がすべてご利用いただけます。それに加え、指導者用デジタル教科書のみ搭載の、教師の負担軽減や授業を進めるのに役立つ、教師用のコンテンツや機能をご用意しています。

まとめスライド

各紙面のまとめの例をデジタル教科書の紙面ページから簡単に提示することができます。



紙面表示機能

カーテン

内容のまとめごと紙面を隠しておくことができます。紙面の見せたい部分をカーテンのように、順に開きながら進めることができます。

決めうち拡大

教科書画面にある図や文などを押すことで、そのエリアを別のタブで拡大表示できます。穴埋め形式の問題のところは解答も表示できます。

ワークの解答表示

答えボタンを押すと、解答が表示されます。指導者用デジタル教科書（教材）で発行されるパスワードを学習者用デジタル教材に入力することで、学習者用デジタル教材でもワークの解答を表示することが可能です。

集約機能

学習者用デジタル教材と連携して、学習者用デジタル教材におけるワークコンテンツの進捗や正誤の状況を確認することができます。

商品ラインナップ

商品名	学習者用デジタル教科書	学習者用デジタル教材	指導者用デジタル教科書（教材）
内容	紙面 + 特別支援機能 + QR ※ QR 以外のコンテンツは含まれておりません。	教材（コンテンツ） ※紙面、特別支援機能、QR は含まれておりません。	学習者用デジタル教科書 + 学習者用デジタル教材 + 指導者用コンテンツ・機能

指導者用も学習者用も同じビューアを採用しております。操作が共通であるため、教師が拡大提示やかきこみをしながら説明し、児童が手元で操作するときに意思疎通が容易です。

- ・「学習者用デジタル教科書」と「学習者用デジタル教材」を1人で両方ともご購入いただけますと、教科書紙面も教材も両方使用することができます。（紙面内の教材アイコンから教材をたちあげることができます。）
- ・「指導者用デジタル教科書（教材）」は指導者用端末で使用する場合に限り校内ライセンスフリーです。

指導者用デジタル教科書（教材）と 学習者用デジタル教科書 + 教材を併用すると…

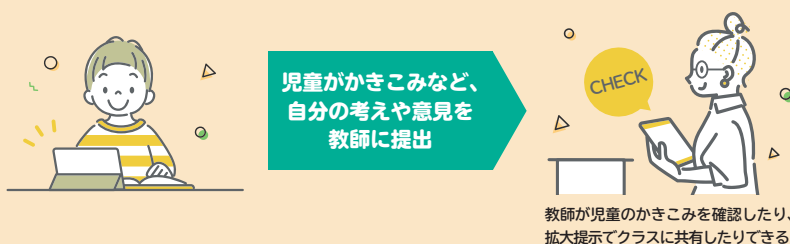
指導者用デジタル教科書（教材）と学習者用デジタル教科書 + 教材を併用すると、次のようなことができます。

1 『超しおり』を活用して、デジタル教科書のかきこみや操作した状態を共有できます

『超しおり』は、紙面やコンテンツのかきこみや操作した状態を保存できる機能です。

保存したものは、超教科書クラウド上で簡単にやりとりできます（ファイルでのやりとりも可能です）。

学校、児童の自宅など、どこで保存したものでもクラウドを通じて、提出したり共有したりできます。



児童が、クラス内で友達とお互いの考えを共有したり、意見を交換したりする場面での活用が期待されます。



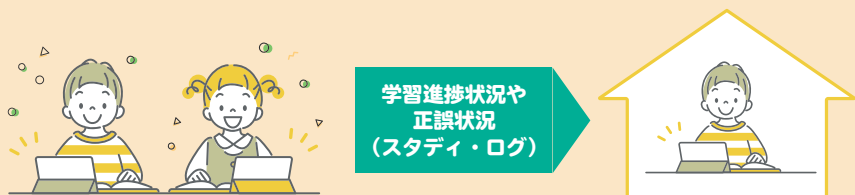
NEW 2 練習問題の進捗管理ができるようになります（クラウド版のみの機能）

指導者用デジタル教科書（教材）と学習者用デジタル教材を併用することで、教科書内の練習問題について、各児童やクラス全体の進捗状況や正答率が教師側で把握できる機能を新たに実装します。（令和6年3月より開始）

指導の個別化や習熟度別学習への活用

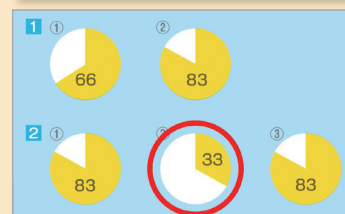
学習進捗状況・正誤状況の確認

児童が学習者用デジタル教材のワーク（練習問題）にどの程度取り組んでいるかが指導者用デジタル教科書（教材）から確認できます。また、ワークコンテンツの自動採点機能を使うことで、解答の提出状況や正誤の状況を簡単に短時間で、指導者用デジタル教科書（教材）から確認することができます。



教師は、児童の進捗状況やつまづき箇所を把握できるので、授業で補足説明を行うことや、各自のつまづきに合わせたアドバイスに役立てていただけます。

	①	②	③	④	⑤	⑥	
	100	80	60	40	20	0	正答率
学習者A	○	○	○	○	○	×	5/6
前回	○	×	○	×	×	×	3/6
初回	○	×	×	×	×	×	1/6



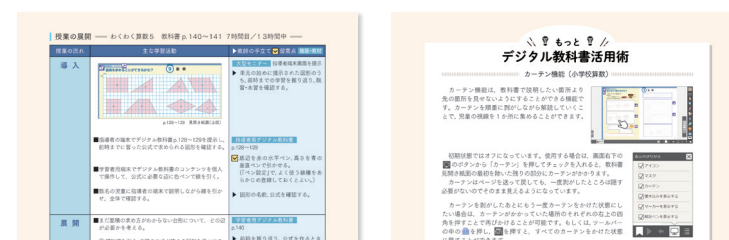
実践事例集

令和2年度版のデジタル教科書で、指導者用と学習者用を使った授業の実践事例や活用術をホームページで公開しています。教科ごとにさまざまな単元の事例があるのでぜひご覧ください。



デジタル教科書実践事例集

<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/digital/jissen/index.html>



動作環境

※基本的にはオンライン環境が必須です。

Windows

OS：Windows11,10（64bit 日本語版）を推奨 ※Sモードは対象外
ブラウザ：Google Chrome、Microsoft Edge の最新版を推奨
解像度：1366 × 768 以上（1920 × 1080 程度を推奨）
メモリ：4GB 以上
画面の表示色数の設定：32 ビットカラー
CPU：Core i3 以上を推奨（2016年8月以降発売の Celeron でも動作を確認しています。）

iPad

OS：iPadOS15 以上
ブラウザ：Safari 最新版を推奨
解像度：Retina 解像度の iPad
対象タブレット：iPad Air2 以上

Chromebook

OS：ChromeOS 最新版
ブラウザ：Google Chrome 最新版を推奨
解像度：1366 × 768 以上
メモリ：4GB 以上

運用方法

クラウド版

啓林館側のサーバから配信され、各端末からはブラウザで使用する「クラウド版」での提供になります。端末へのインストール等の作業は不要ですが、アカウントの作成が必要です。オンライン環境が必須です。やむを得ずオンライン環境がご用意できない場合は、指導者用に限りインストールアプリ版（Windows/iPad）もご用意しますが、アプリ版の場合は学習要素を用いた機能や進捗管理機能などご使用いただけない機能がございます。



デジタル教科書紹介ページ



体験版や詳しい内容はこちらをご覧ください。
<https://digi-keirin.com/r6-dtext/sansu.html>

実際に、機能やコンテンツをお試しいただけます。



※体験版ご利用にはオンライン環境が必要です。
※制作中のため、デジタル教科書の画面やアイコン、機能や動作環境などは変更になる場合がございます。

啓林館 マルチリンガル教科書



Keirinkanマルチリンガル教科書は、Catalog Pocket(株式会社モリサワ)の自動翻訳機能を利用して、啓林館教科書を多言語に表示できるアプリです。

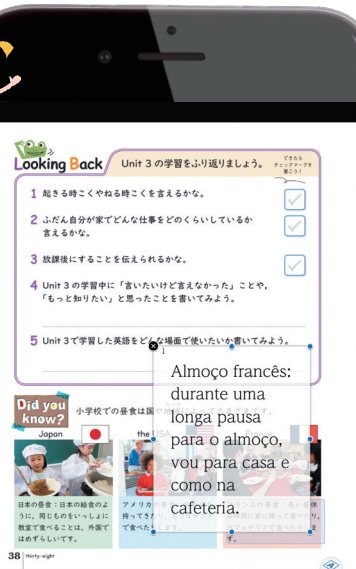
ワンクリックで他言語を表示！

教科書のテキスト部分が様々な言語で表示されますので、外国籍や帰国子女の児童もスムーズに教科書を読み進めることができます。

幅広い言語に対応！

- モリサワ社製のアプリ「カタログポケット」を利用して教科書を多言語表示します。
- iOS版、アンドロイド版、ブラウザ版があります。

外国籍・
帰国子女の
児童・生徒に



翻訳言語

SUPPORTED LANGUAGE



※ベトナム語以外は機械音声による読み上げもあります。

拡大教科書のご紹介

※制作中のため、仕様及び内容は変更になる場合がございます。

弱視児童への配慮として、通常の教科書の文字や図形、イラストなどを大きく、読みやすく構成し直した教科書です。

弱視の程度に合わせて選べるように、文字の大きさを違えたものをご用意する予定です。

1年生
教科書

6+7の けいさんの しかたを

大きく
読みやすく！

拡大
教科書

6+7の けいさんの

教科書準拠教材のご紹介

※制作中のため、仕様及び内容は変更になる場合がございます。

家庭学習や自学自習に！

わくわく算数 問題集

わくわく算数教科書に完全準拠した問題です。

- POINT 1 ほぼ全ての単元の前に「準備」の問題を設置
児童のレディネスチェックに役立ちます。
- POINT 2 基礎基本を重視しつつ、間違いやすい問題や少し難しい問題にはマークを付記
児童の実態にあわせて選択することができ、確かな算数力を育みます。
- POINT 3 「スマートレクチャーわくわく算数」も活用可能
苦手な内容を、教科書に戻って復習することができます。
デジタル版わくわく算数問題集も発刊いたします。(別売)

ノート指導・特別支援教育に！

わくわく算数 教科書ノート

わくわく算数教科書の1時間の授業にあわせたノート指導のためのノートです。

- POINT 1 テーマとなる問題や教科書の図などが掲載
問題を書き写す時間が短縮され、考える時間を確保できます。
児童全員が同じものを使うことで、ノート指導がしやすくなります。
- POINT 2 教師用書には教科書該当ページの板書例(ノート例)が記載
教師用書を確認することで、授業の流れがイメージしやすくなります。
- POINT 3 発達段階に応じたノートのマス目を使用
ゆとりをもって書き込むことができます。

観点別評価やつまずき対策に！

わくわく算数 評価テスト

わくわく算数教科書に完全準拠した評価テストです。

- POINT 1 基礎・基本版と活用力版のラインナップ
プレテスト、おさらいシートの有無も学級にあわせて選べます。
- POINT 2 冊子タイプの教師用書が付属
採点がしやすく、その後の指導に役立つ情報も盛り込む予定です。
- POINT 3 「スマートレクチャーわくわく算数」も活用可能
苦手な内容を、教科書に戻って復習することができます。

より主体的な一斉授業に！わくわく算数掛図もご用意いたします。

著作編修関係者

寺垣内 政 一 広島大学教授
根 上 生 也 横浜国立大学名誉教授
矢 部 敏 昭 鳥取大学名誉教授
清 水 静 海 元帝京大学教授

愛 須 一 弘 湯浅町立山田小学校校長
青 山 和 裕 愛知教育大学准教授
青 山 泰 浩 元京都市立仁和小学校校長
朝 日 潤 平 愛知教育大学附属名古屋小学校教諭
東 尚 平 神戸大学附属小学校主幹教諭
阿 部 好 貴 新潟大学准教授
新 木 伸 次 国士舘大学准教授
有 元 淳 一 赤磐市立山陽東小学校教諭
家 田 晴 行 元東京家政大学教授
猪 狩 佑 太 東京都江戸川区立東小松川小学校教諭
石 田 淳 一 東京家政大学教授
今 井 敏 博 同志社女子大学教授
岩 崎 秀 樹 広島大学名誉教授
上 田 美智穂 光華小学校教諭
上 野 和 彦 玉川大学客員教授
江 橋 直 治 国立学園小学校教諭
大 路 直 輝 洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校教諭
太 田 直 樹 福山市立大学准教授
太 田 誠 東海学園大学教授
岡 部 恭 幸 神戸大学教授
岡 本 昭 彦 元防府市立桑山中学校校長
小 野 祐 揮 那珂珂川市立岩戸小学校教諭
小 原 豊 学習院大学教授
影 山 和 也 広島大学准教授
金 尾 義 崇 下関市立吉見小学校教諭
神 山 繁 樹 元西東京市立保谷第二小学校校長
亀 岡 正 睦 京都文教大学教授
河 崎 哲 嗣 岐阜大学准教授
川 崎 徹 元羽曳野市立古市小学校校長
河 田 慎太郎 奈良女子大学附属小学校教諭
川 西 邦 彦 大阪市立橋小学校校長
木 根 主 税 宮崎大学准教授
木 村 国 広 長崎大学教授
楠 博 文 就実大学教授
口分田 政 史 福井大学講師
栗 本 晴 子 八千代市立村上小学校教諭
小 坂 裕 皇 植草学園大学教授
古 藤 怜 上越教育大学名誉教授
古波津 美 香 那覇市立大道小学校教諭
小 林 永 児 岐阜聖徳学園大学附属小学校教諭

小 林 ふ み 福井市森田小学校教諭
古 本 温 久 関西大学初等部教諭
小 柳 政 憲 小金井市立前原小学校校長
齋 藤 直 大 東京都文京区立誠之小学校主幹教諭
佐々木 祐 輔 東京都足立区立弘道第一小学校主任教諭
佐々木 亮 輔 八戸市立小中野小学校教諭
佐 藤 茂 太 郎 松本大学准教授
佐 藤 学 秋田大学教授
椎 名 美穂子 畿央大学教授
柴 田 録 治 愛知教育大学名誉教授
島 田 功 元日本体育大学教授
清 水 克 彦 東京理科大学教授
志 水 廣 愛知教育大学名誉教授
下 口 真砂代 大野市下庄小学校校長
下 村 岳 人 島根大学講師
白 濱 勝 佐賀市立東与賀小学校校長
神 保 勇 児 東京学芸大学附属大泉小学校教諭
杉 能 道 明 ノートルダム清心女子大学准教授
杉野本 勇 気 香川大学准教授
鈴 木 一 尋 東北文教大学講師
鈴 木 詞 雄 創価大学教授
鈴 木 康 志 元筑波大学附属中学校教諭
瀬 田 真裕美 四天王寺小学校教諭
田 中 尚 宏 札幌市立幌南小学校教諭
田 中 伸 明 三重大学教授
田 村 真 生 大阪市立玉川小学校指導教諭
茅 野 公 穂 信州大学教授
土 屋 誠 司 東京都江戸川区立小岩小学校主任教諭
中 川 慎 一 元南砺市立福光東部小学校校長
仲 田 弘 伺 大阪市立三国小学校校長
中 西 健太郎 大阪市立鷺洲小学校首席
中 西 英 宮崎市立本郷小学校指導教諭
中 村 洋 志 元鹿児島市立田上小学校校長
中 村 好 則 岩手大学教授
西 川 幸 太 郎 船橋市立二宮小学校教諭
橋 本 隆 公 大阪成蹊大学教授
橋 本 悠 樹 川西市立けやき坂小学校教諭
服 部 勝 憲 元鳴門教育大学教授
馬 場 卓 也 広島大学教授
早 田 透 鳴門教育大学准教授
平 山 やよい 元市川市立行徳小学校教諭
日 和 佐 尚 元園田学園女子大学准教授
福 本 義 久 四天王寺大学准教授
藤 井 浩 史 高松市立栗林小学校校長
藤 井 善 信 桃山学院教育大学准教授

藤 井 良 宜 宮崎大学教授
藤 岡 洋 介 仁川学院小学校教諭
細 井 宏 一 東京学芸大学附属大泉小学校副校長
細 江 孝 太 郎 富山県小矢部市立石動小学校教諭
松 尾 七 重 千葉大学教授
松 本 文 利 元熊谷市立富士見中学校校長
萬 徳 紀 之 九州女子大学教授
溝 口 達 也 鳥取大学教授
湊 雄 史 賢明学院小学校教諭
宮 崎 樹 夫 信州大学教授
宮 里 晋 浦添市立牧港小学校校長
三 山 善 久 三重大学非常勤講師
村 上 斉 東北大学教授
森 力 琉球大学准教授
森 秀 樹 昭和女子大学准教授
山 口 佳 織 大阪市立鷺洲小学校教諭
山 崎 美 穂 帝京大学講師
山 下 英 俊 元那珂川市立岩戸小学校校長
山 田 将 司 香美町立瑛塚小学校教諭
吉 井 貴 寿 熊本大学准教授
吉 村 直 道 愛媛大学教授
渡 邊 敏 夫 元岡山市立福浜小学校校長
株式会社新興出版社啓林館編集部

特別支援教育に関する監修

柘 植 雅 義 筑波大学教授

言語力に関する監修

芥 川 元 喜 金沢星稜大学准教授
流 田 賢 一 大阪市立堀川小学校首席

道徳教育に関する監修

松 下 隼 司 大阪市立豊仁小学校教諭
吉 松 智 昭 大阪教育大学附属平野小学校教諭

防災・減災に関する監修

河 田 恵 昭 関西大学特別任命教授、
社会安全研究センター長

環境教育に関する監修

阿 部 治 立教大学名誉教授

STEAM教育に関する監修

中 島 さ ち 子 株式会社 steAm 代表取締役

ほか 89名



個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。
メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。



見やすいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



啓林館ホームページ
<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

本社
東京支社
北海道支社
東海支社
広島支社
九州支社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号
〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号
〒060-0062 札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階
〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階
〒732-0052 広島市東区光町1丁目7番11号広島C Dビル5階
〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号ハイヒルズビル5階

電話(06)6779-1531
電話(03)3814-2151
電話(011)271-2022
電話(052)231-0125
電話(082)261-7246
電話(092)725-6677



Google for Education
Partner

当社は、Google Cloud Partner Advantage プログラムにおいて、
Google for Education™ の Build パートナーの認定を取得しました。

Google for Education は Google LLC の商標です。



当社が取り扱う全ての個人情報(デジタル教科書等で取り扱う個人情報)
について、社会的使命を十分に認識し、本人の権利の保護、個人情報に
関する法規制等を遵守します。